■慶應義塾大学産業研究所社会心理学研究班モノグラフ／No. 11

現代に生きる児童・生徒の価値意識調査（1）

――「家庭」に関する価値意識――

I. はじめに――多様化する価値観にせまる―― 5
II. 調査の目的 5
III. 調査の基本的スキーム 6
1. 四つのカテゴリー――家庭・自己・自己と他己・学校―― 6
2. 四つのカテゴリーの細部項目 7
IV. 調査方法 8
V. 調査対象 9
VI. 家庭項目に関する調査結果 9
1―a. 「家庭生活」の結果 9
1―b. 「親子関係」の結果 20
1―c. 「きょうだい」の結果 43
VII. まとめ 47
資料 1～3（閉鎖式文章完成法テスト） 49

■執筆／小泉　仰・佐野勝男・萩原　滋・大久保正健

本稿は，下記のメンバーによる『道徳番組改善のための児童・生徒の価値意識調査』プロジェクトからの報告（第１報）である。

プロジェクト・メンバー

小泉　仰*・佐野勝男・関本昌秀・蓮池守一・加藤虔一・萩原　滋・南　隆男・大久保正健・安積　薫・山本陽子・小島妙子

＜* 印はプロジェクト主幹＞

本プロジェクトの企図・推進にあたり，『ＮＨＫ放送文化基金』（昭和51年度および昭和52年度の２ヶ年）の援助を受けた。記して謝意を表します。

調査の実施にあたっては，下記の諸学校ならびに諸先生より多大な協力を得た。記して感謝申しあげます。

調査協力機関（順不同）

桃井第一小学校・慶應幼稚舎・御幸小学校・日野第三小学校・長倉小学校・石森小学校・堅倉小学校・朝日小学校・ＮＳ小学校(長崎)・飛鳥中学校・慶應普通部・松本中学校・御幸中学校日野第四中学校・横瀬中学校・中田中学校・美野里中学校・紋別中学校・ＮＩ中学校(長崎)

調査協力者（順不同・敬称略）

星野輝武・古賀茂俊・渡辺徳三郎・床司　恒・原　玲子・平山　毅・谷川　渡・熊谷弘通・今宮徹郎・NM氏・田代羊吉・香山芳久・小泉幹夫・桜井秀雄・林　直樹・石黒福太郎・萩原典子・浅見勝政・及川　功・皆藤千湧・岡村利夫・南　一雄・水谷　一

I
はじめに――多様化する価値観にせまる――

現代の日本人は価値観の多様化と混乱現象のうちに陥っていると言われて，すでに久しいことである。こうした価値観の多様化現象は，今日成人だけではなく，幼児・小学校児童・中学校生徒をも捲き込んだ極めて広範囲の現象のように思われる。

こうした価値観の多様化と混乱は，社会にとって良い方向に向う現象とも悪い方向に向う現象とも一概に言い切れないものを持っている。たとえば，ある一つの社会が仮りに等質的で一様な価値観のみを持っていると仮定してみよう。一体そうした社会は，その社会にとって良い状態なのであろうか。恐らくそうした社会は，発展と飛躍を遂げるヴァイタリティを欠く社会である可能性が大いにある。またそうした等質的で一様な価値観を社会構成員に強制している極めて強大な権力機構さえ，予想させる現象ではないだろうか。むしろ通常の現代社会は，価値観の多様化を必然的に含んだダイナミックな社会であり，そうした価値観の多様化のゆえにダイナミックな発展と変質を予想できるものと言えよう。しかし他面において，価値観の多様化と混乱は，社会構成員同志のコミュニケーションを極度に阻害したり，あるいはまた，いわゆる一種のアノミーの現象を社会構成員の間に引き起こして，多くの社会問題の解決を一層困難ならしめる原動力にもなりかねないのである。

今日の小学校児童・中学校生徒に対する道徳教育をいかに行うべきか，という問題を考える場合にも，児童・生徒の間にも侵透している価値観の在り方，その多様化と混乱は，教師と児童・生徒との間のジネレーション・ギャップを増大させて，相互の人間的信頼関係を阻害するだけではなく，多くの児童・生徒同志の間にもコミュニケーションの阻害や，一種のアノミー現象をもたらすと共に，彼ら一人一人を孤立の状況に追いやるように見えるのである。従って，人間としてより善く，より正しく生きようとすることをめざす今日の道徳教育の課題にとって，現代に生きる小学校児童・中学校生徒の価値意識とその多様化，及びその発達傾向を明らかにすることは，必須条件であると言わねばならない。なぜなら，児童・生徒の価値意識を明らかにすることによって，教師と児童・生徒のコミュニケーションを回復し，両者の孤立状況からの脱出のための適切にして有効な手段を示唆することができるからであり，そうすることによって真の人間関係を回復し，教育の場をして真の教育の場たらしめる希望が生まれるからである。

II
調　査　の　目　的

われわれはこうした現代に生きる小学校児童ならびに中学校生徒の価値意識とその発達のあり方を明らかにすることを，本調査の目的としている。

ここでいう価値意識とは，広範囲の内容を含んでいる。たとえば日常生活の中で感じる児童・生徒の好き嫌いも含まれる。たとえばスポーツが好きか嫌いかとか，仲間と一緒にいるのがいいとか，一人を楽しむ傾向がある，とかいう生活感情をも含ませて考えてみる。また子供たちの勉学への態度や家庭への評価，自己自身への評価などを含ませてみる。これらの態度に共通する点をいえば，子供が或るものを他のものより善いものとして，あるいは，より好ましいものとして選択する心の働きが挙げられよう。こうした選択は価値を選びとる態度であり，この価値選択の態度を価値観と呼んでみれば，価値意識は子供の価値観を含んでいることになる。またこうした態度をもった子供たちが社会生活上倫理的にどちらかに正しく，または不正に決断しなければならないような個々の限界状況に直面することもある。こうした場面を経て，彼らの価値意識は高度に意識的で倫理的な態度に成長していく。この倫理的態度を倫理観と呼べば，ここでいう価値意識は，倫理観をも含んでいる。さらに人間の一生を全体的にとらえ，人間の一生を積極的または消極的な方向に舵

を取って進もうとする全体的態度を，人生観と呼ぶなら，価値意識は，こうした人生観をも含んでいる。以上，われわれは価値意識を，価値観・倫理観・人生観をひっくるめた広い内容のものとして考えることにする。

III
調査の基本的スキーム

1. 四つのカテゴリー——家庭・自己・自己と他己・学校——

上述のように，ここでいう価値意識は，児童・生徒の生活態度に近い価値観から意識的倫理観，さらに人生観をも含む広範囲の意識としてとらえたのであるから，価値意識の調査は，現代に生きる児童・生徒の生活全体をできるだけ網羅していることが望ましい。

そこでまず，子供たちがそこで生れ育ち，基本的な価値意識を初めて育て上げていく場としての家庭を挙げるのが，当然である。家庭は，C・H・クーリィが20世紀初頭に提唱した primary group のうちの最も基礎的な集団でもある。primary group とは，親密な，顔と顔を合わせた結合と協働という特色を持つ集団である。プライマリーとはその集団が個人の社会的性格と理想を基本的に作り上げるという特性を示す。ここで「顔と顔を合わせた face-to-face」という言葉は，新約聖書のコリント第一の手紙13章12節にある神の国における神と人，人と人との全人的関係の成立を示す「prosōpon pros prosōpon（顔と顔を合わせた）」に由来するものと思われる。恐らくクーリィも，primary groupを定義したとき，コリント書のこの言葉を連想したことであろう。それだけに，「プライマリー・グループ」は理想的人間集団を意味して，あまりにも価値的であるといわれ，また "face-to-face" の特色が必ずしも primary group の必然的特性を示すものでもないという反省から，クーリィの定義は修正されて用いられている。最近の用法によれば，それは家族や友人などの少数集団をさし，その集団の中で各成員が他のすべての成員に対して親密で相互的，全人格的社会関係を結んでいる点に，特色があるとされている。また，① すべての個人に応答関係があること，② コミュニケーションが深く広範囲であること，③ 個人の満足が持続的であることを，第一次関係（primary relation）とし，第一次関係に基いている集団を primary group と定義することもある。

子供の価値意識発生の場として，この primary group は極めて大切で基本的な集団であるが，この中でも家族の中心的生活場面としての家庭は，価値意識の基礎的生活場面であり，われわれの基本的スキームの第一のカテゴリーに挙げなければならない。primary group の第二の事例は，友人の集団である。子供は家庭に生まれ育って，基本的価値意識を形成していくが，家庭を一歩出ると，よその家庭に生まれ育ち異質の価値意識を培った他者に出会い，友人関係を結んで異質の価値意識を学んだり，創出したりしていく。こうした他者との出会いを通じて，子供は，家庭とも他者とも区別された「自己」を意識していく。「私は何者か」という問いは，たえず自己に押し迫り，家庭から独立した自己を確立するように強制していく。

「家庭」と「友人」という第一次集団が「自己」を確立させていくゆえに，われわれは基本的スキームとして第1に「家庭」，第2に「友人（自己と他己）」，第3に「自己」を採用することができる。しかし今日の児童・生徒の生活には，家庭生活でも友人との生活でも，かなり一人自分だけに閉じ込もる傾向が強いように思われる。友人との関係も，淡い灰色の遊び仲間の関係が多く，その結びつきがきわめて弱いように見える。この傾向はまた現代の子供たちが無意識的に自己中心的でもある傾向にも通じている。これは，現代の成人にも言える傾向であり，すべての価値基準の基礎を自己にすえようという態度をエゴイズムと呼んでみれば，子供の世界においても，エゴイズムの傾向は強い。そこで，われわれは，現代に生きる子供たちのこうしたエゴイズムの傾向をとらえて，第2のカテゴリーとして「自己」をとる。そして第3に家庭と同じく primary group に属する「友人」集団を含む「自己と他己」のカテゴリーを立てる。「友人」をカテゴリーにとらずに，

あえて「自己と他己」としたのは，ここには友人だけでなく，「お年寄り」「体の不自由な人」などに対する個人的対人関係を含ませたからであり，さらに第2のカテゴリーの「自己」と他の自己(他己)との関わりに関する価値意識を見ようとするからである。

第4に「学校」のカテゴリーを置く。学校は，primary group に対する secondary group とも考えられるが，子供はそこにおいて家庭から次第に独立して派生社会(アソシエーション)に参加していく予備的教育的生活場面に遭遇する。子供はここで社会に通用する価値観・倫理観を学び，且つそれらを批判する訓練を受け，親子関係という先天的関係から精神的離乳を果たし，社会人としての独立を獲得していく。こうして独立した社会人としての価値意識を形成する場が学校である。

以上，われわれは，①家庭，②自己，③自己と他己，④学校の4項目を基本的スキームとして採用する。次に上記4項目のそれぞれの細部項目について述べよう。

2. 四つのカテゴリーの細部項目

I）家庭

まずIa「家庭生活」全体に対する子供の評価を見よう。その中に「家庭の雰囲気」が明るいか（暗いか）どうか，楽しいか（楽しくないか）どうかを探ってみる。また家族成員間の交わりを示す「家中の外出」度も，興味ある項目である。さらに家庭内労働の中の子供の役割を知ろうとする「家での手伝い」をねらう。また子供が家庭の中の人間的結びつきを明らかにしようとする「家中で一番味方になってくれる人，一番厳しい人」を立てる。

家庭の中心は，Ib「親子関係」である。親子関係の中でも，Iba「父母」をまず挙げる。ここでは子供が「お父さん」「お母さん」をどのように評価しているか，また父母はそれぞれどの程度「授業参観」に出席しているかを，子供の目を通して問うてみる。さらに子供は，親との間にどの程度のコミュニケーションを確立しているのか，またどんなことをして貰いたいと思っているかを，明らかにしようとするIbb「親子のコミュニケーション」の項目を設ける。さらに親は子供をどのようにしつけているかを探るIbc「親のしつけ」を設ける。ここには「親のしつけ」一般のきびしさを問い，また具体的には「食事のしかた」「帰宅時間」「ねる時間」について，親がどの程度子供に注意を与えているかを，明らかにする。

次にIbd「親と子供の友人」では，親が子供の友人に対してどのような態度を取るかを考える。そしてIbe で「受験勉強」という子供の難関に，親はどのような態度を示すかを，子供の目を通して調査する。最後にIc「兄弟」の関係を明らかにするのである。

II）自己

ここではIIa「スポーツ」への子供の態度を見，さらにIIb「恥」意識がどのように発達していくかを見る。IIcは「強い意志」である。ここにはさらに「忍耐」と「倹約」を項目を加えておこう。さらに具体的なIId「挫折状況」に直面して，どのように子供がこれに対処するかを見る。ここには「気持が傷けられたとき」「反対意見に出会うとき」「失敗したとき」「試験勉強とテレビ」「受験勉強と私」などの挫折状況が含まれている。IIeは「私にとって一番大切なもの」を見，最後にIIf「私の欠点」を見る。

III）自己と他己

ここでは，三つのレベルで他の個人への態度を明らかにする。第一は心情としての「思いやり」が稀薄と考えられている現代の子供たちのIIIa「思いやり」のあり方を，明らかにする。第二は，IIIb「友人関係」で，「けんか」した場合，「友人の難儀」の場合の子供の反応を見る。また「話し合える友人」がどの位いるか，および「自分の欲しい友人」を尋ねる。第三は，IIIc「異性の理解」である。ここには「理想の異性」像と「男・女のいい点，悪い点」「男女の比較」を子供に述べさせてみる。

IV）学校

学校についても大別5つに分けてみる。第1は学校全体に対して子供がどのような評価態度を持っているかを尋ねるIVa「学校の評価」である。すなわち「学校の雰囲気」の評価，なぜ学校へいくのか（「学校の目的」），「生徒としての自覚」などを問うてみる。第2は，IVb「きまり」である。

ここでは「学校のきまり」と「自分たちで決めたきまり」に対して，どのような評価を持ち，またこれら二つのきまりに対してどのような評価の違いがあるかを考える。前者は既成の権威としてのきまりで，後者は民主的手続で採用されたきまりである。第3は，Ⅳc「学校の付属物」(公共物)に対する態度を考える。そして第4に，子供たちが共同でするⅣd「掃除当番」への態度を見る。第5は，Ⅳe「学校生活」である。ここではまず，クラスの中での自分の「人気」を自己評価させてみる。また「クラブ活動・部活動」への参加または評価を問うてみるのである。次は，「学習の理解度」と「先生への期待」及び「通知表」への態度を問うてみるのである。

Ⅳ 調　査　方　法

調査方法は，昭和53年度に，①閉鎖式文章完成法テスト，②ラジオ・テレビ道徳番組の視聴後の感想文・質問票分析，③略画法テストの三種を採用したが，本報告は第1の閉鎖式文章完成法テストのみを取り上げるので，このテストのみについて述べる。詳細は本稿末尾に資料1，2，3として付したが，小2，X，Yの三種を上記基本的スキームに従って作成した。小2は，小学校2年生用で，低学年用として用語を易しくし，且つ質問項目を26問と少なくしてある。X，Yは小学生4年，5年，6年，中学生2年用とし，X，Yそれぞれ49問ある。コンピューター番号に移していえば，1問中2項目以上を含むものもあるので，小2は31項目，Xは59項目，Yは57項目ある。XとY共通問題があり，37項目がそれで，後はX独自のもの22項目，Y独自のものが20項目ある。今，基本スキームと小2，X，Yの問題番号（括孤内はコンピューター番号)を対応させた表を以下に掲げる。

Ⅰ　家庭
Ⅰa　家庭生活
家庭の雰囲気：小2-2(9)，XⅠ-2(9，10)；Y1-2(9，10)
家中の外出：小2-12(23)；XⅠ-22(35)；YⅠ-22(34)
家の手伝い：小2-5(12，13，14，15，16)；XⅠ-6(14，15，16，17，18)；YⅠ-5(13，14，15，16，17)
家中で一番の味方または一番厳しい人：小2-10(21)；XⅠ-18(30)；YⅠ-17(29)
Ⅰb　親子関係
Ⅰba　父母
お父さん：XⅡ-4(40，41)
お母さん：YⅡ-5(41，42)
お母さんの労働：小2-7(18)；XⅠ-10(22)；YⅠ-7(19)
お父さんの授業参観：YⅡ-8(46)
お母さんと授業参観：XⅡ-8(46)
Ⅰbb　親子のコミュニケーション
私の悩みを親に：XⅠ-14(26)；YⅠ-12(24)
親にして貰いたいこと：小2-16(27，28)；XⅡ-12(50)；YⅡ-11(49)
Ⅰbc　親のしつけ：YⅠ-9(21)；XⅡ-22(62)；YⅡ-21(60)：XⅠ-4(12)
しつけ・食事のしかた・帰宅時間・ねる時間
Ⅰbd　親と子供の友人：XⅠ-8(20)；YⅠ-20(32)；XⅡ-18(56)；YⅡ-17(55)
Ⅰbe　親と受験勉強：XⅡ-25(65)；YⅡ-25(64)
Ⅰc　兄　弟：XⅡ-1(37)；YⅡ-(37)
Ⅱ　自　己
Ⅱa　スポーツ：小2-1(8)；XⅠ-1(8)；YⅠ-1(8)
Ⅱb　恥　：XⅠ-9(21)
Ⅱc　強い意志：XⅠ-12(24)；YⅠ-10(22)
忍　耐：XⅠ-15(27)；YⅠ-13(25)
倹　約：XⅡ-2(38)；YⅡ-2(38)
Ⅱd　挫折状況の対処
気持を傷つけられたとき：小2-22(34)；XⅡ-14(52)；YⅡ-13(51)
反対意見に出会うとき：XⅡ-20(59)；YⅡ-19(57)
失敗したとき，困難にぶつかったとき；XⅠ-21(34)；YⅠ-21(33)
試験勉強とテレビ：XⅡ-24(64)；YⅡ-23(62)
受験勉強と私：XⅠ-16(28)；YⅠ-14(26)
Ⅱe　私にとって一番大切なもの：小2-18(30)；XⅡ-9(47)；YⅡ-9(47)
Ⅱf　私の欠点：YⅠ-24(36)
Ⅲ　自己と他己
Ⅲa　思いやり：XⅠ-13(25)；YⅠ-11(23)；

小2-14，XⅡ-3(39)；YⅡ-4(40)

Ⅲb　友人関係

けんか：・2-4(11)；XⅠ-5(13)；YⅠ-4(12)

友の難儀：XⅡ-11(49)；YⅠ-16(28)；

話し合える友：小2-21(33)；XⅡ-13(51)；YⅡ-12(50)

私のほしい友：XⅡ-21(60,61)；YⅡ-20(58,59)

Ⅲc　異性の理解

理想の異性：小2-9(20)；小2-19(31)；XⅠ-17(29)；YⅠ-15(27)

男・女の評価：XⅠ-20(32，33)；YⅡ-15(53)；YⅡ-7(44，45)；YⅠ-19(31)；XⅡ-16(54)；XⅡ-7(44，45)

Ⅳ　学校

Ⅳa　学校の評価

学校の雰囲気：小2-3(10)；XⅠ-3(11)；YⅠ-3(11)

学校へいく目的：小2-15(26)；XⅡ-5(42)；YⅡ-3(39)

生徒としての自覚：XⅡ-15(53)；YⅡ-14(52)

Ⅳb　きまり

学校のきまり：小2-13(24)；XⅠ-23(36)；YⅠ-23(35)

みんなで決めたきまり：小2-23(35)；XⅡ-17(55)；YⅡ-16(54)

Ⅳc　学校のもの：小2-25(37)；XⅡ-23(63)；YⅡ-22(61)

Ⅳd　掃除当番：小2-26(38)；XⅡ-26(66)；YⅡ-24(63)

小2-17(29)；XⅡ-6(43)；YⅡ-6(43)

Ⅳe　学級生活

クラスの人気：小2-6(17)；XⅠ-7(19)；YⅠ-6(18)

クラブ活動，部活動：XⅠ-11(23)；YⅠ-8(20)

学習の理解度：小2-11(22)；XⅠ-19(31)；YⅠ-18(30)

先生にして貰いたい事：小2-24(36)；XⅡ-19(57，58)；YⅡ-18(56)

通知表：小2-20(32)；XⅡ-10(48)；YⅡ-10(48)

上記問題番号と問題の内容については，末尾資料の調査票を参照されたい。また問題番号の下にアンダーラインを引いておいた所は，小2とX・Y，またはXとYとにわたって共通の問題であることを示している。

V　調査対象

既述の目的に添い，上記の方法を適用する対象として，われわれは次のようなものを選んだ。

小学校9校，中学校10校を全国地区から選び，小学校2年2クラス，4年2クラス，5年2クラス，6年2クラス宛選び，また中学校は2年生を2クラス宛選び，小学生2690名（内，男1423，女1267），中学生837名（内，男483，女354），計3527名（内，男1906，女1621）を調査対象とした。

地域別としては，大都市及び周辺（桃井第一小慶応幼稚舎，御幸小，日野第三小，飛鳥中，慶応普通部，松本中，日野第四中），農村地区（長倉小，石森小，堅倉小，横瀬中，中田中，美野里中），中小都市地区（朝日小，NS小，紋別中，NI中）の三地区が区別されている。

尚，表中，X（またはY）の記号は，それぞれ横に並ぶ男21，女20の1クラスにX調査票（またはY調査票）を適用したことを示している。

因みに調査票，小2，X，Yそれぞれを適用した対象人数は，表3の通りである。

そこで，基本スキームの細部項目表内で，XとYの共通部分に関する調査対象は，2841名となっている。

VI　家庭項目に関する調査結果

本調査報告は，上述の閉鎖式文章完成法テストのうち，家庭項目のみについて述べる第1報である。

Ⅰa.　「家庭生活」の結果

まず「家庭の雰囲気」を評価する問いを見る。これは小2-2，XⅠ-2，YⅠ-2「私の家庭を

表 1

コンピューター番号	小学校	小 2		小 4		小 5		小 6		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
01	桃井第一小学校（東京）	52	41	18	23 X	25	18 X	22	16 X	335
				18	21 Y	25	18 Y	23	15 Y	
02	慶応幼稚舎（東京）	62	24	30	11 X	32	11 X	30	12 X	341
				31	12 Y	31	12 Y	31	12 Y	
03	御幸小学校（川崎）	40	45	21	22 X	18	22 X	20	20 X	328
				21	22 Y	17	20 Y	17	23 Y	
04	日野第三小学校（日野）	37	33	19	21 X	22	23 X	23	19 X	321
				22	17 Y	21	23 Y	23	18 Y	
05	長倉小学校（埼玉）	32	41	15	21 X	17	16 X	21	20 X	294
				17	21 Y	16	15 Y	21	21 Y	
06	石森小学校（宮城）	23	20	11	13 X	15	13 X	20	16 X	185
				11	13 Y	15	15 Y		Y	
07	堅倉小学校（茨城）	41	48	14	21 X	21	22 X	12	17 X	303
				18	18 Y	21	22 Y	13	15 Y	
08	朝日小学校（北海道）	33	34	18	19 X	18	16 X	15	18 X	276
				20	17 Y	17	17 Y	16	18 Y	
09	NC小学校（長崎）	36	44	20	19 X	23	21 X	19	12 X	307
				21	18 Y	22	21 Y	20	11 Y	
総計		356	330	345	329	376	325	346	283	2690 (X1021, Y983)

一口でいうと」であり，その結果は，図1，2，3，4，5である。学年表記は，小学校2年を小2とし，同様に小4，小5，小6とする。中学生は中2であり，数字は百分率である。全体として見ると，小2，小4，小5，小6は，「楽しい」が54%から60%前後あり，「全く楽しくない」は4.8%台で低い。「ふつう」の回答も37%～40%台で，全体として家庭が「楽しい」と見るか，「ふつう」と見るものが多い。中2になると，「楽しい」は45.1%と激減するが，「ふつう」の評価は，49.6%と上昇する(図1)。男女別では，各学年ともに女子は，「楽しい」と答えるものが男子より高く，小学生では女子は62～67%，男子は49～55

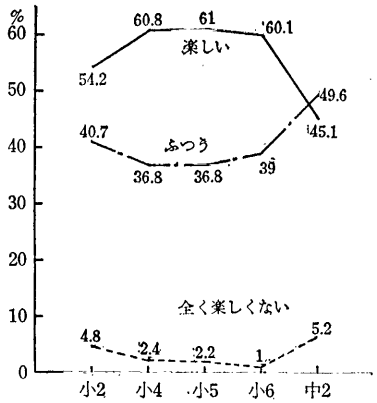

図 1　小2-2，XI-2　Y-2
私の家庭を一口にいうと<全体>

表 2

番号	中学校	中2 男	中2 女	合計
10	飛鳥中学校（東京）	20	19 X	77
		20	18 Y	
11	慶応普通部（横浜）	47	X	94
		47	Y	
12	松本中学校（横浜）	25	17 X	85
		26	17 Y	
13	御幸中学校（川崎）	22	19 X	81
		22	18 Y	
14	日野第四中学校（日野）	19	22 X	83
		20	22 Y	
15	横瀬中学校（埼玉）	19	17 X	72
		19	17 Y	
16	中田中学校（宮城）	22	22 X	88
		21	23 Y	
17	美野野中学校（茨城）	23	21 X	86
		22	20 Y	
18	紋別中学校（北海道）	21	20 X	84
		23	20 Y	
19	NI中学校（長崎）	22	21 X	87
		23	21 Y	
総計		483	354	837 X 418 Y 419

表 3

小2	686
X	1439
Y	1402
計	3527

表 4

	男	女	計
小2	356	330	686
X	779	660	1439
Y	771	631	1402

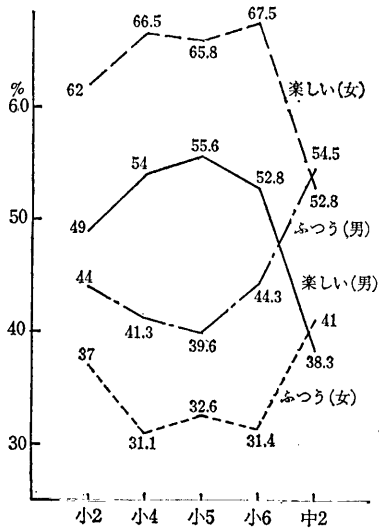

図 2　小2-2，XI-2，YI-2
私の家庭を一口にいうと<男女別>

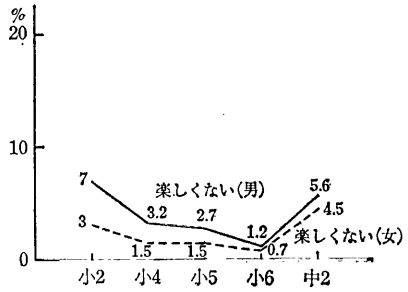

図 3　小2-2，XI-2，YI-2
私の家庭を一口にいうと<男女別>

%となり，その差は10%以上ある。中2では，男女共に「楽しい」は激減するが，逆に「ふつう」の方が男女共に上昇する（図2）。「楽しくない」は男女共に少ないが，男子の方が女子より僅かに多い。小2，中2の男女が多少高い（図3）。

地域別では，大都市及び周辺地区（60.2%），中小都市地区（53.7%），農村地区（50.9%）の順で，「楽しい」という回答率が並ぶ。大都市の方に家庭を楽しいとする傾向が見え，農村地区は都市部より低い。「ふつう」の回答は，農村が最高で，中小都市，大都会の順に低くなる。「楽しくない」はどの地区も僅少で，地域差は見られない（図4）。

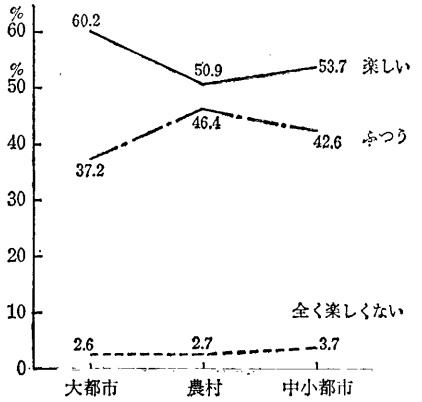

図 4 小2-2，XI-2，YI-2
私の家庭を一口にいうと＜地域別・全体＞

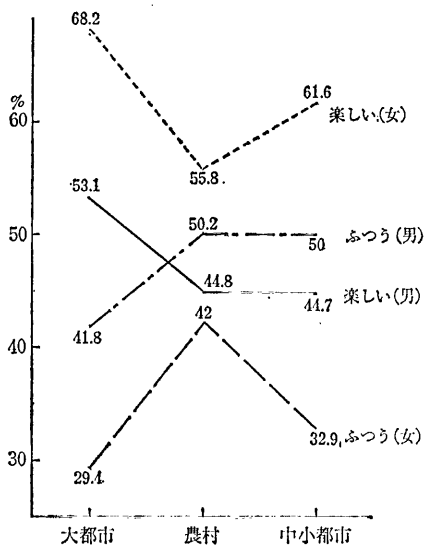

図 5 小2-2，XI-2
私の家庭を一口にいうと＜地域別＞

さらに地域別の中での男女別を示すのが，図5である。女子は「楽しい」と回答するものが大都市に多く，68.2%で最高である。次に中小都市の女子が61.6%，農村の女子は55.8%で最低となる。男子は，大都市53.1%と女子より低く，農村44.8%，中小都市44.7%の順で，女子と違う型を示す。「ふつう」は，男子の方が多い。女子では農村部に多い。

次に家族そろって外出する度合をはかる小2-12，XI-22，YI-22「家中みんなで出掛けることは」を見る。結果は図6から図10である。「よくある」の回答では，全体として小5が24.3%と最高を示し，小4，小2と学年の低下と共に漸減

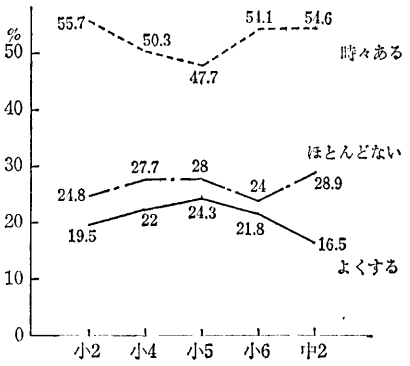

図 6 小2-12 XI-22，YI-22
家中みんなで出掛けることは＜全体＞

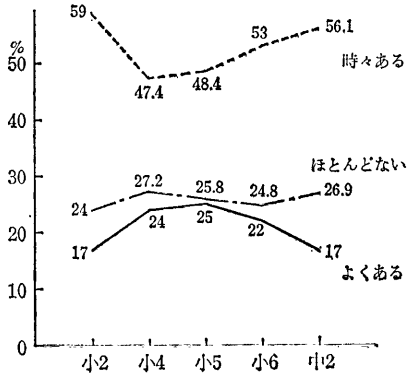

図 7 小2-12，XI-22，YI-22
家中みんなで出掛けることは＜男子＞

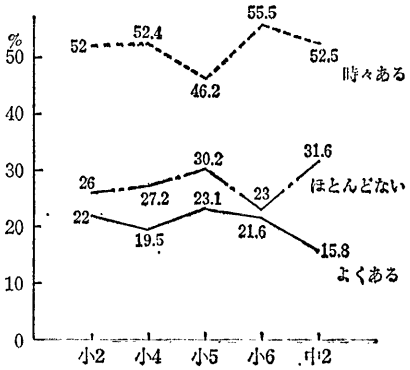

図 8 小2-12，XI-22，YI-22
家中みんなで出掛けることは＜女子＞

し，また小6，中2と進むに従い，漸減している。中2は最低 16.5% を示している。「時々ある」は，上述の「よくある」の略々逆であるが，最高は小2の55.7%である。「ほとんどない」は，小6が最低の24.0%で，全体として「よくある」より各学年共に上回っている。そして中2の「ほとんどない」が 28.9% で最高率を示している（図6）。

男女別（図7，図8）を見るのに，「よくある」と「時々ある」を加算して，「ほとんどない」を減じた結果を以下に記してみよう（表5）。

表 5

「よくある」+「時々ある」−「ほとんどない」	小 2	小 4	小 5	小 6	中 2
男	52%	44.2%	47.6%	50.2%	46.2%
女	48%	44.7%	39.1%	54.1%	36.7%
男−女	4	−0.5	8.5	−3.9	9.5

表5からすれば，小2，小5，中2は，男子の方が女子より高い傾向を示している。とくに小5男子と中2男子家庭は，女子よりそれぞれ8.5%と9.5%ほど高い傾向がある。一方，小4女子，小6女子は男子より僅か上回っているように見える。

地域別（図9，図10）では，小2には「よくある」が19〜20%で，変化はないが，「時々ある」は大都市60%，農村55%，中小都市46%の順に低くなっている。逆に「ほとんどない」は大都市20%，農村26%，中小都市33%で，中小都市が最高である。中小都市家庭は一家で外出しない家庭が3割強ある。小4以上中2迄の地域別（図10）では，「よくある」は大都市26.2%で最高，農村13.5%で最低を示している。逆に「ほとんどない」は，農村39.4%で最高，大都市20.7%で最低である。これは農村の母親が毎日働きに出ている率の高いことと相応している（XI-10，YI-7参照）。

次に家庭の中で子供がどんな手伝いを，どの程度しているかを問う小 2-5，XI-6，YI-5「家の手伝いのうち，私は」を見よう。結果は図11，12，13，14，15である。手伝いの種類は，掃除，食事の手伝い，お使い，風呂の仕度，下の子の面倒であるが，「よくする」という回答を取り上げると，全体として風呂の仕度とお使いを除き，学年の上昇と共に手伝わなくなる傾向を示す。お使いは，小5が一番手伝い，優等生的である。また風呂の仕度では，小5が最低で，小6，中2は再び上昇する。全体として子供たちが家の手伝いをする種類の百分率の順序は，お使いが最高，食事の手伝い，風呂の仕度，下の子の面倒，掃除の順になっている。子供が手伝う最高の順位を占めるお使いでは，「よくする」は「全くしない」を全学年にわたって凌駕している。「よくする」と「全くしない」の差は，小2（31%），小4（27%），

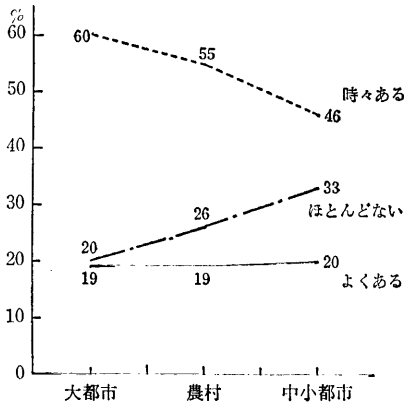

図 9 小2-12，XI-22，YI-22
家中みんなで出掛けることは＜小2＞

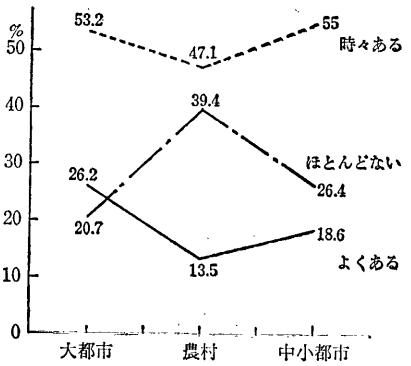

図10 小2-12，XI-，YI-22，
家中みんなで出掛けることは＜小4〜中2＞

小5（36%），小6（31%），中2（18%）で，小5が最もよく手伝うのに対し，中2は最低である。食事の手伝いでは，「よくする」「全くしない」の差は，それぞれ21%，13%，16%，11%，−12%で，小2が最高，次が小5，小4，小6の順で，中2は，「全くしない」が「よくする」を上まわる。この傾向は，ほぼ「下の子の面倒を見る」場合にも当てはまる。風呂の仕度は，小2，小4，小5では仕事として難かしいので，「全くしない」が「よくする」を上回っている。

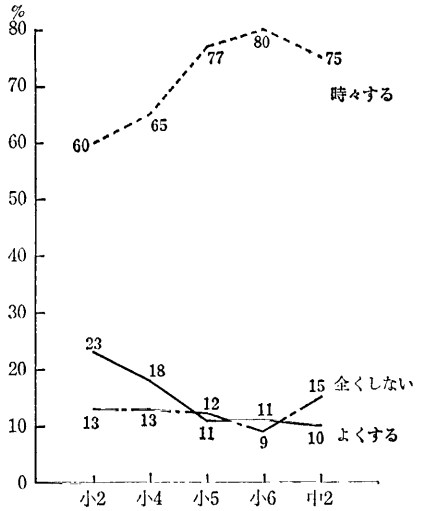

図11 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は掃除を＜全体＞

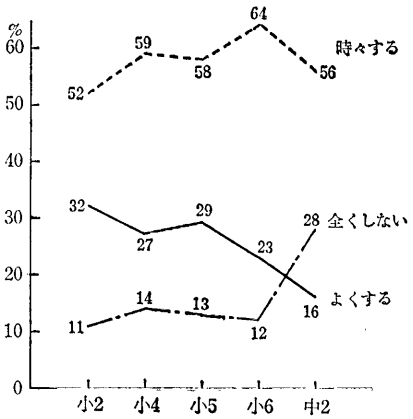

図12 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は食事の手伝いを＜全体＞

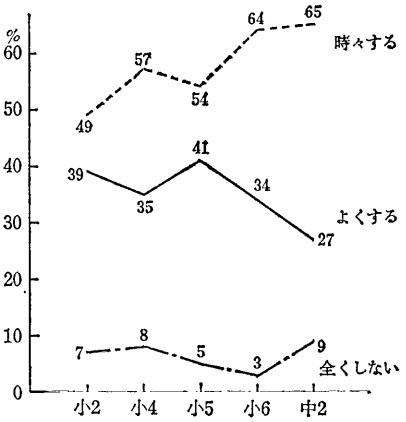

図13 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私はお使いにいくことを＜全体＞

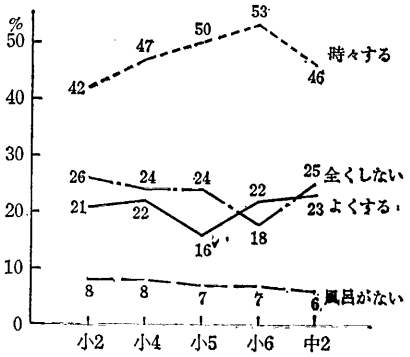

図14 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私はお風呂のしたくを＜全体＞

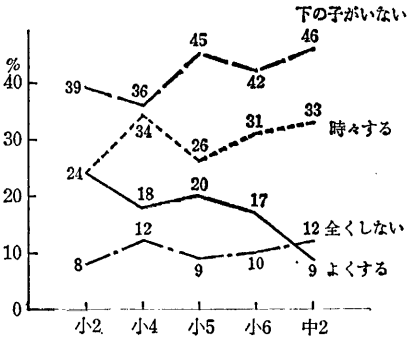

図15 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は下の子のめんどうを＜全体＞

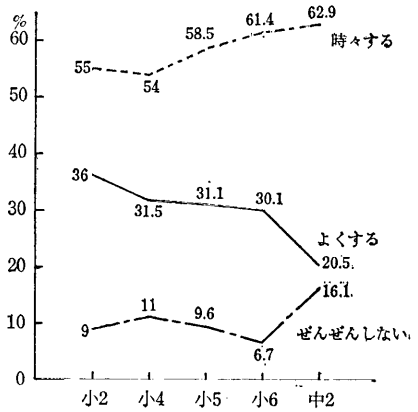

図16　小2－5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私はお使いにいくことを
＜男子＞

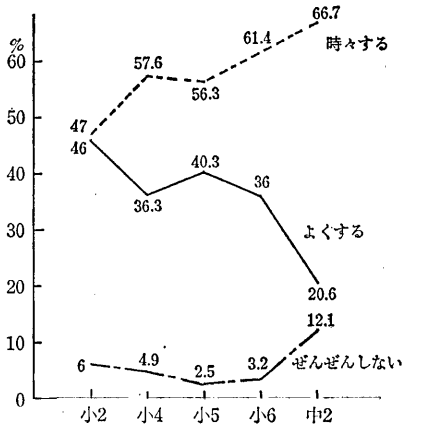

図17　小2－5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私はお使いにいくことを
＜女子＞

次に男女別を見よう。図16，17，18，19，20，21，22，23，24，25がそれである。お使いは男女共学年と共に減少するが，小5女子は40.3％で，よく手伝いをし，逆に「全くしない」も，小5女子は2.5％で最低である(図16，17)。食事の手伝いは女子が「よくする」ことが各学年共に男子より多く，「全くしない」も，従って男子より少い。とくに中2男子は「全くしない」が40.8％と高く，中2女子の5.1％とくらべ，著しく異なっている。全体として食事のしたくは，女子型の手伝いのあり方を示している(図18，19)。風呂の仕度では，男女がかなり接近するが，中2男子の27.5

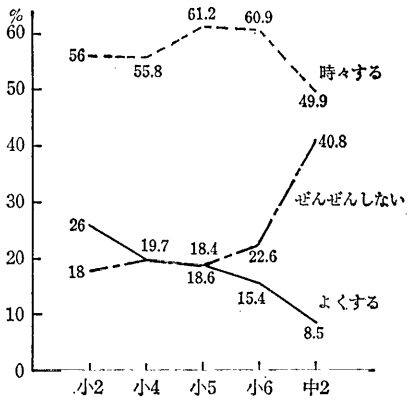

図18　小2－5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は食事の手伝いを＜男子＞

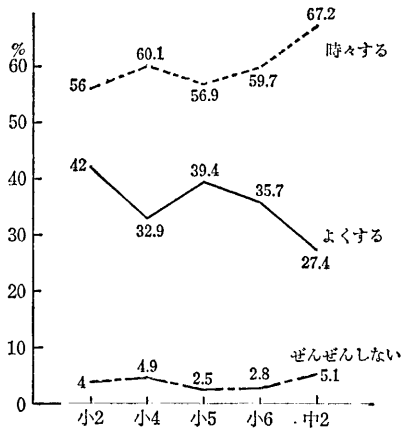

図19　小2－5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は食事の手伝いを＜女子＞

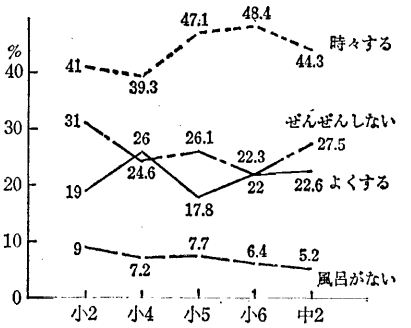

図20　小2－5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私はお風呂のしたくを
＜男子＞

が「全くしない」と答え，中2女子の20.6%より高い(図20，21)。下の子の面倒も，女子の方が男子より各学年共にする方が多い(図22，23)。掃除も女子の方がよく手伝う。中2男子は「ぜんぜんしない」が22.8%と高くなり，女子の5.6%とくらべて高い。

地域別は図26から31迄に示してある。とくにお使い，食事の手伝い，下の子の面倒だけを取り上げると，お使いは，大都市の男より女がよく手伝う。食事の手伝いは，女子の方がよく手伝うが，とくに中小都市の男子が「全く手伝わない」ものが多い。下の子の面倒では，農村女子がよくする。大都市男子が他にくらべ，多少高い率を示している。

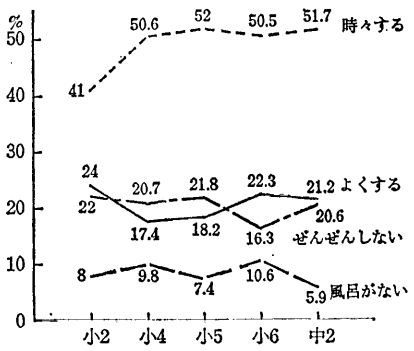

図21 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝のうち，私はお風呂のしたくを<女子>

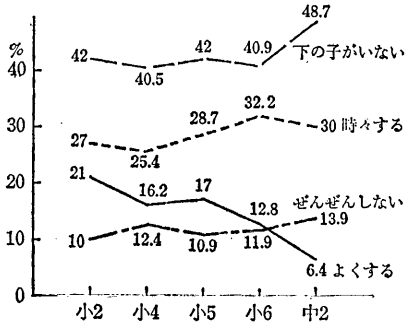

図22 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は下の子のめんどうを<男子>

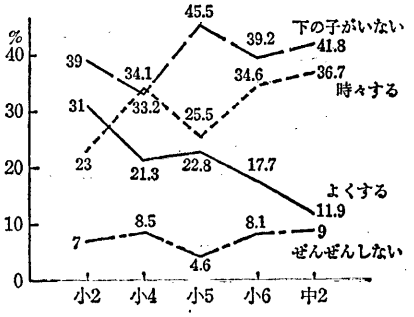

図23 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は下の子の面倒を<女子>

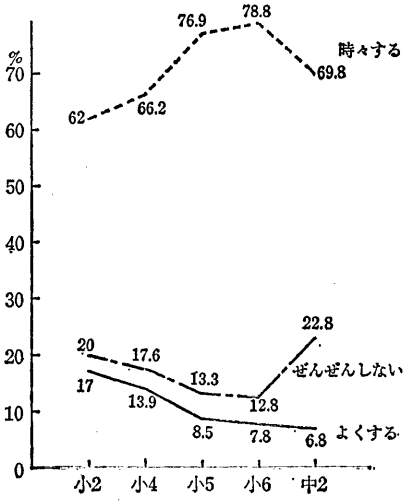

図24 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は掃除を<男子>

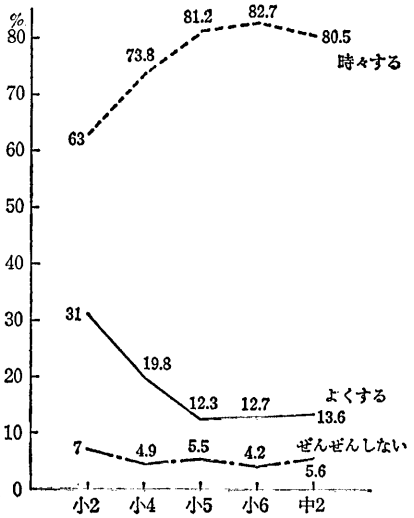

図25 小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は掃除を<女子>

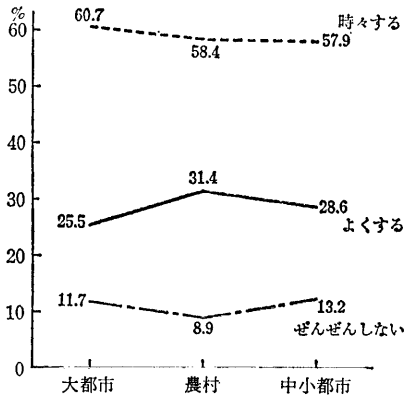

図26　小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝のうち，私はお使いにいくことを
<男子>

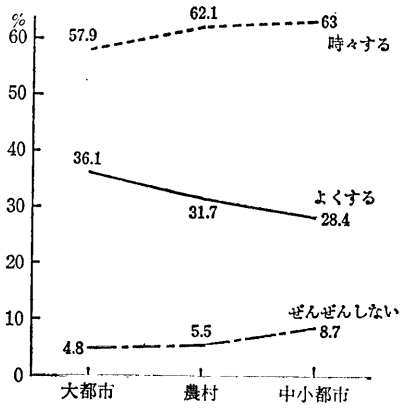

図27　小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私はお使いにいくことを
<女子>

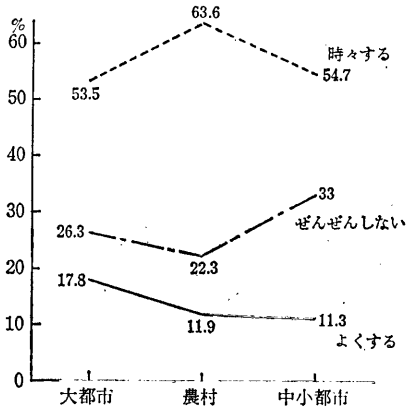

図28　小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は食事の手伝いを<男子>

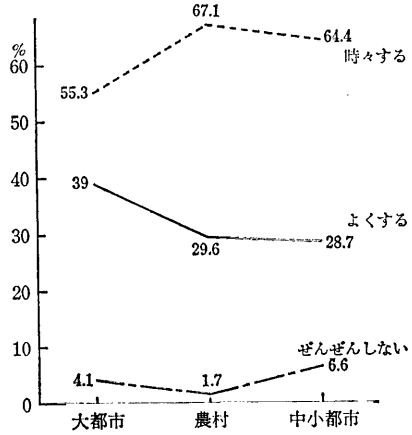

図29　小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は食事の手伝いを<女子>

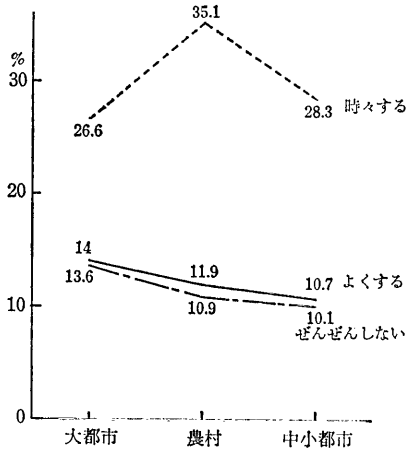

図30　小2-5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は下の子の面倒を<男子>

次に，XI-18「家族の中で，私に一番味方してくれる人は」を見よう。結果は，図32から36迄に示してある。一番味方してくれる相手は，母：33.3%，父：27.1%，いない：17.0%，祖父母：12%，その他である。母系中心型の家庭観が伺える。学年別・全体では，小2で，父が母を僅かに上回るほかは，各学年共に母が父を押えて一番頼りにされている。小6で，少し落ちるが，大体において母への信頼度は，学年の進むとともに高まり，中2では42%という最高値に達する。受験

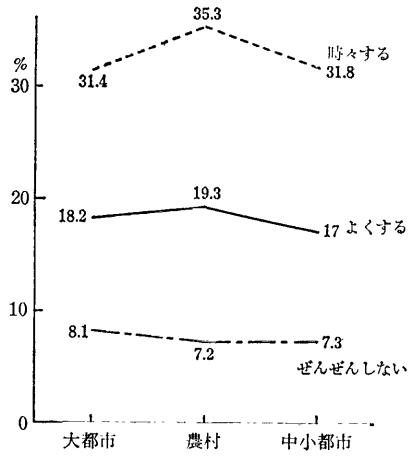

図31 小2－5，XI-6，YI-5，
家の手伝いのうち，私は下の子の面倒を＜女子＞

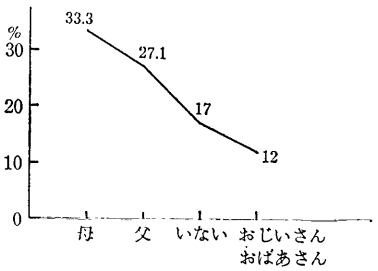

図32 XI-18，
家族の中で，私に一番味方してくれる人は
＜全体＞

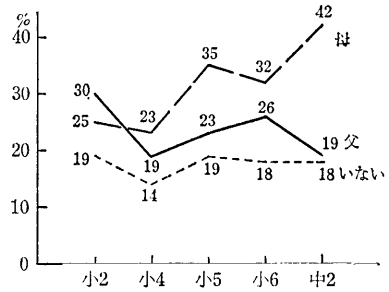

図33 XI-18，
家族の中で，私に一番味方をしてくれる人は
＜学年別・全体＞

期の中学生がいかに母を頼りにしているかが示される。父は，小2では30％と高いが，小4で落ち，小5，小6で少し上昇するが，中2では，19％と落ちている。此頃の父親は，40～50歳台で，社会的に重責を負わされている世代である。家に帰っても，子供と交わる気力も，機会もなくしているにちがいない。図34～36は，男女別の結果である。母と父への態度を比較した図である。男子は，小4から父より母に信頼をする傾向を示し，中2の段階で，父への信頼を示すものが20％なのに対して，母へは39％と高くなる。女子は，各学年共に，母への信頼が父への信頼を上回っているが，小5で40％と高くなり，中2で父への16％

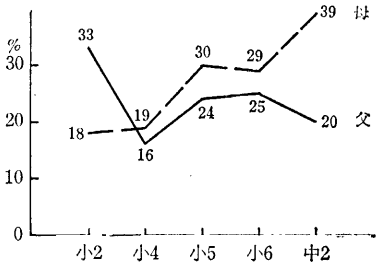

図34 XI-18，
家族の中で，私に一番味方にくれる人は
＜男子＞

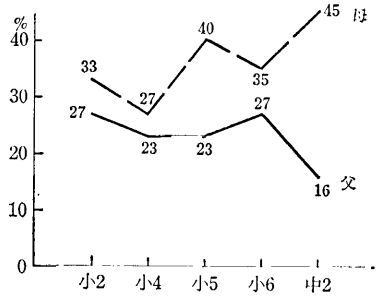

図35 XI-18
家族の中で，私に一番味方にしくれる人は
＜女子＞

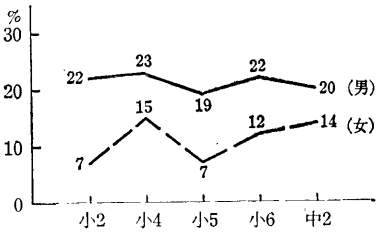

図36 XI-18，
家族の中で，私に一番味方してくれる人は
＜いない＞

に対して，母へは，45％と最高の信頼度を示している。中２女子は，中２男子より一層母を信頼している傾向を示している。

図36は，味方がいないとする回答である。男子が女子よりかなり上回っている。男子は，女子より家庭の中で孤立するものが多い傾向を示している。

次に「家族の中で一番厳しい人は」を見る。結果は，図37～図39である。これらは，上位の三回答のみを挙げたのである。この外に兄・姉・祖父母・妹・弟などが挙げられているが，少数の百分率で，分散しているので，ここでは除いた。全体として男女共，父よりも母を厳しいとみている。また男子は女子よりも父を厳しいと見ており，とくに小６が最高(41％)を示す。女子は男子より母を厳しいと見て，同じく小６が最高（50％）を示している。また女子は父を厳しいと見る，が小５で最高(32％)で，高学年化と共に低下し，中２で26％と最低の値を示している。厳しい人は「いない」の回答は，男子が女子より多少多い。とくに中２男子は中２女子より多い。図40，41は男女別に父母両者に対する結果をまとめて書き変えたものである。男子は小４，小５で母を厳しいと見るが，小６，中２で父を厳しいと見るように変わっている。母への評価は学年にあまり関わりない。女子は小５が父を，小６が母を厳しいとみなすことが多い。

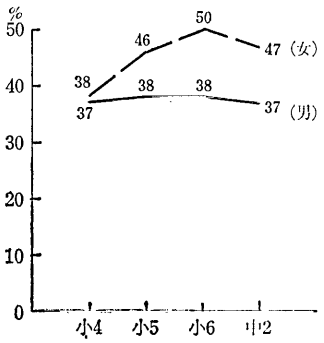

図37　Y I-17,
家族の中で，一番厳しい人は＜①母である＞

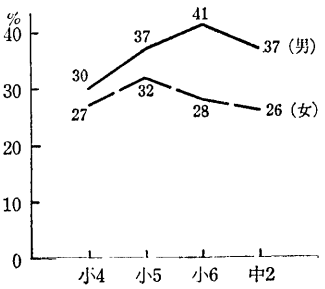

図38　Y I-17,
家族の中で，一番厳しい人は＜②父である＞

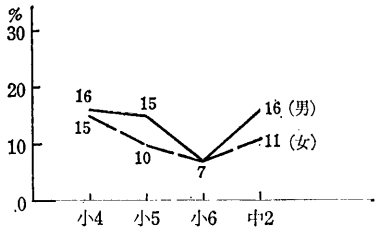

図39　Y I-17,
家族の中で，一番厳しい人は＜③いない＞

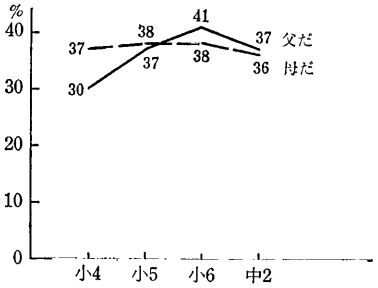

図40　Y I-17,
家族の中で，一番厳しい人は＜男子・学年別＞

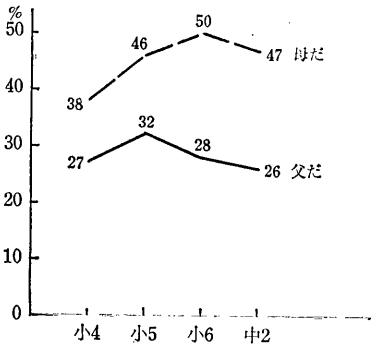

図41　Y I-17,
家族の中で，一番厳しい人は＜女子・学年別＞

Ib. 「親子関係」の結果

次に親子関係を子供がどう評価しているかを問うてみる。ここにも，I-ba 父母と子供，I-bb 親子のコミュニケーション，I-bc 親のしつけ I-bd 親と子供の友人，I-be 親と受験勉強を入れることにする。

I-ba. 父母と子供

まず XII-4 「私のお父さんは<えらい・ふつう・えらくない>」の結果を見よう。それは図42, 43, 44 に示されている。全体として（図42），「えらいと思う」のは，小4～小6までほとんど変化しないで，44%～46%あるが，中2で36%に減少する。これに対して「ふつう」は，中2で55%と上昇する。「えらくない」は僅かで変化もすくない。男子は「えらい」と「ふつう」が小4から小6までほぼ同じ率で変らないが(45%～49%)中2で一挙に「ふつう」が「えらい」より増す。

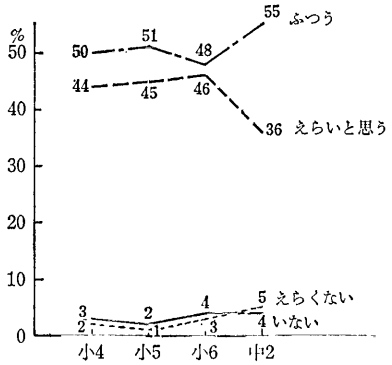

図42 XII-4,
私のお父さんは(イ)<全体>

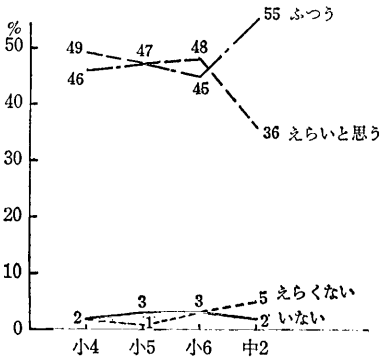

図43 XII-4,
私のお父さんは(イ)<男子>

女子は，各学年を通じて「えらい」より「ふつう」が高く，やや醒めた目で父を見ており，中2では「ふつう」が58%を示し，「えらい」は35%

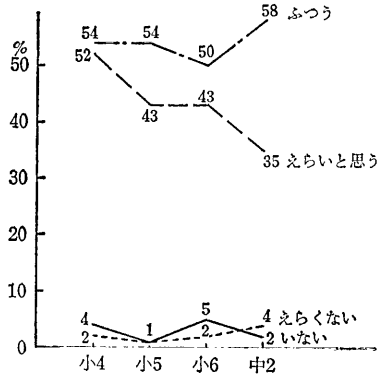

図44 XII-4,
私のお父さんは(イ)<女子>

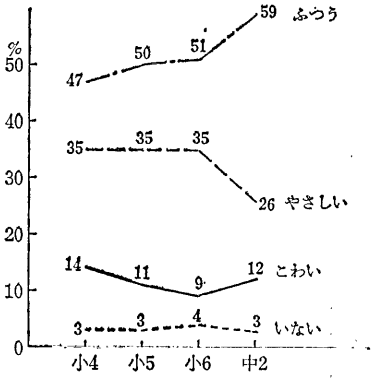

図45 XII-4,
私のお父さんは(ロ)<全体>

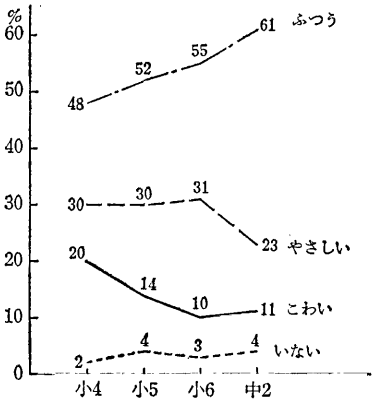

図46 XII-4,
私のお父さんは(ロ)<男子>

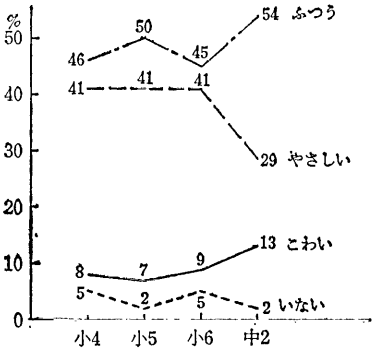

図47　XII-4,
私のお父さんは(ロ)<女子>

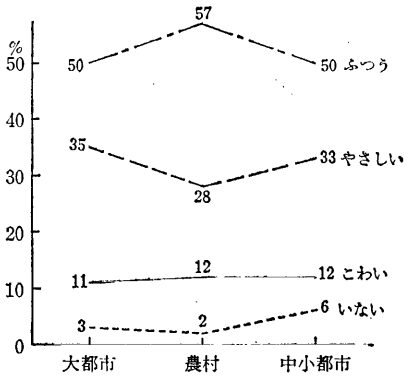

図48　XII-4,
私のお父さんは(ロ)<地域別>

に低下する。

次に「お父さんは<やさしい・ふつう・こわい>」の回答を見よう。結果は図45, 46, 47に示されている。全体として「やさしい」は小4～小6迄変化せず，中2で減少（26%）するのに対して，「ふつう」は，学年の上昇と共に増加し，中2でとくに急増する。「こわい」は，小4～小6で漸減し，中2で少し上り気味となる。

地域別は「お父さんは(ロ)」にのみ，多少の差が見られる（図48)。父のやさしさは大都市が最高，中小都市が次，農村が最低であり，「ふつう」は逆に農村が最高である。また父が「いない」は中小都市に稍多い。

次に YII-5「私のお母さんは<やさしい・ふつう・こわい>(イ)」を見よう。結果は図49～51である。「やさしい」は小4から小5　と少し落ちて，小6，中2で稍高くなる。父親の場合と逆の傾向を示す(図45, 図49)。「こわい」は高学年化と共に減少するが，これも父への中2の態度と反対である（図45, 図49)。男女別は，あまりなく，女子は小6，中2で，男子より「やさしい」と答えるものが僅かに多い。同じく「私のお母さんは<えらい・ふつう・えらくない>(ロ)」の回答は，図52～54である。全体として「えらい」は父に対するよりは小学生で低く(図42と図52参照)中2で母親の方が僅かに高い。男子は母の方に対してより，全学年共，父に対して「えらい」の回答が多い(図43と図53)。女子は，小学生では学年と共に母に対して「えらい」の回答が漸増し，

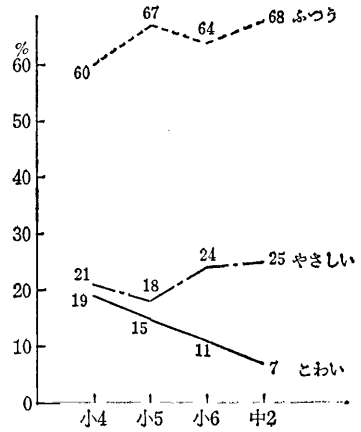

図49　YII-5,
私のお母さんは(イ)<全体>

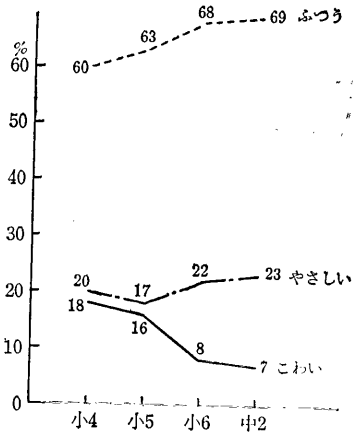

図50　YII-5,
私のお母さんは(イ)<男子>

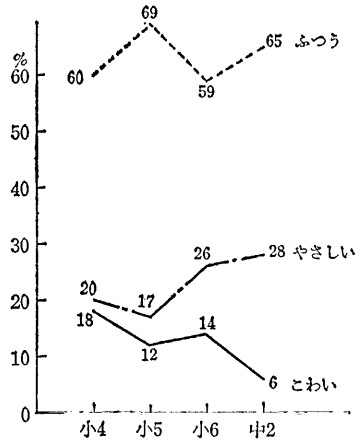

図51 Y II-5,
私のお母さんは(イ)<女子>

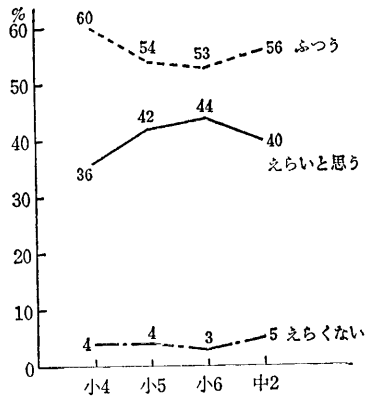

図52 Y II-5,
私のお母さんは(ロ)<全体>

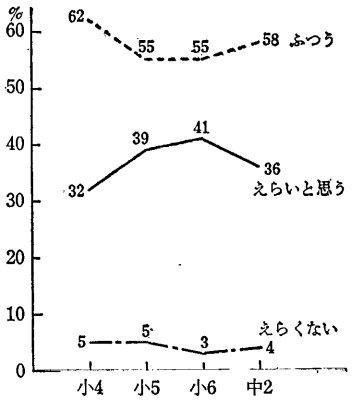

図53 Y II-5,
私のお母さんは(ロ)<男子>

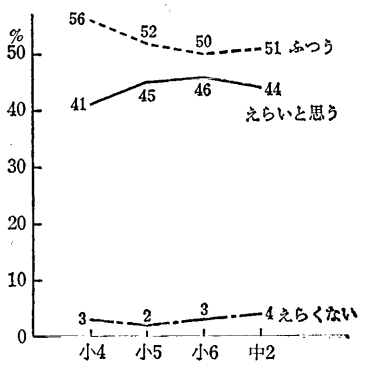

図54 Y II-5,
私のお母さんは(ロ)<女子>

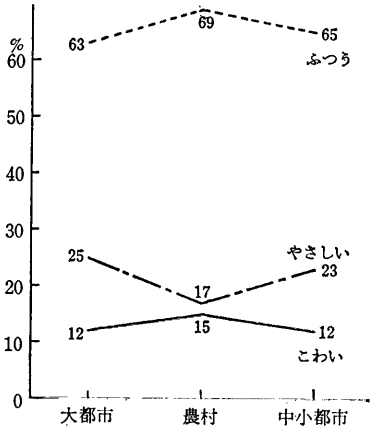

図55 Y II-5,
私のお母さんは(イ)<地域別>

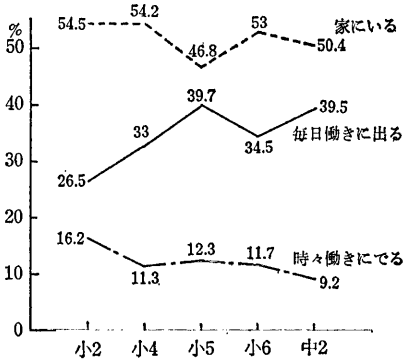

図56 小2-7 (18) X I-10, Y I-7,
私のお母さんは<全体>

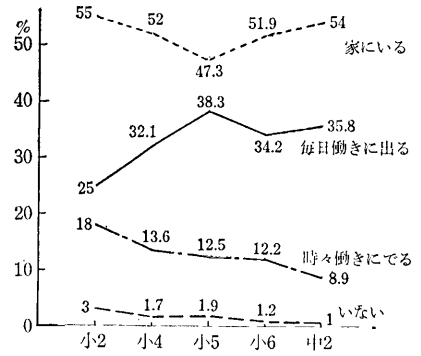

図57　小2－7，XI-10，YI-7，
私のお母さんは＜男子＞

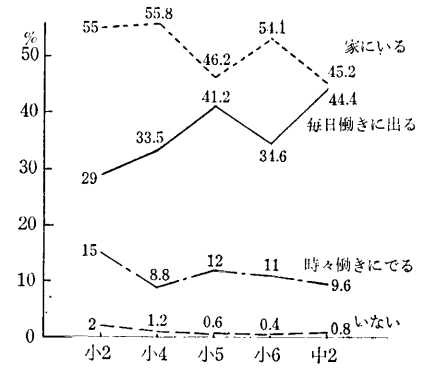

図58　小2－7，XI-10，YI-7，
私のお母さんは＜女子＞

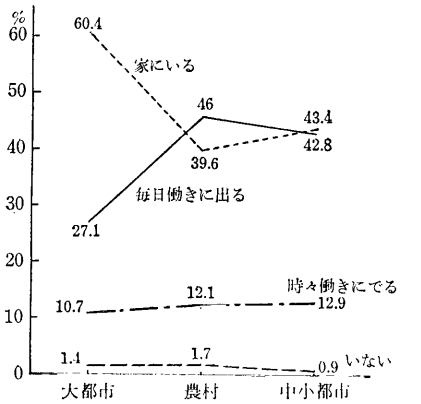

図59　小2－7，XI-10，YI-7，
私のお母さんは＜地域別・男子＞

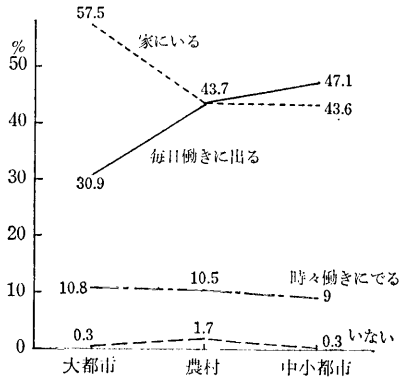

図60　小2－7，XI-10，YI-7，
私のお母さんは＜地域別・女子＞

その率も父に対するより小5，小6で高く，とくに中2女子は，父（35%）より母（44%）の方をえらいと見ている(図44と図54)。地域別では母が「やさしい」は，農村が最低で，「こわい」は農村が最高となる（図55）が，他に地域差はない。

次に小2－7，XI-10，YI-7「私のお母さんは＜毎日働きに出る・時々働きに出る・家にいる＞」の回答を見よう。結果は図56～60である。これは人口統計学的な基礎資料である。全体として毎日出勤する母親は，小2が最低で次第に上昇し，小5で最高となり，小6で少し落ちるが，中2で再び上昇し，26.5%から39.7%を示している。パート・タイムの出勤は学年上昇と共に漸減し，16.2%から9.2%に減る。職を持たず，主婦専業の母親は，平均51.8%で，略半分以上を占め，小4で46.8%と僅かに低下している。男女別では，毎日働きに出るものは，男子の母親より女子を持つ母親の方が，小5，中2で稍高い。主婦専業も，小5，中2で女子の母親の方が低い（図56，57，58)。地域別では（図59，60）毎日出勤者は，男子の母親が農村に多く(46.0%)，女子の母親は中小都市地区に多い（47.1%)。大都市の母親は毎日の出勤者は最低である（男27.1%，女30.9%)。パート・タイムは地域差がなく，10%台である。主婦専業は大都市が最高（男60.4%，女57.5%）で，農村男子の母親が最低（39.6%）である。

次にYII－8「お父さんは授業参観に」(図61，

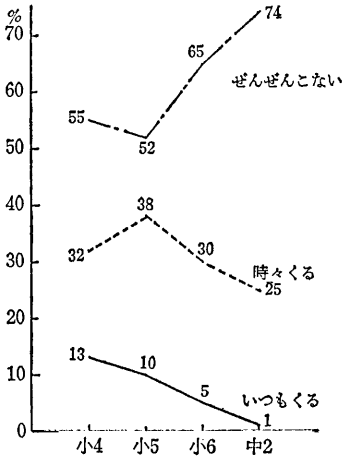

図61 Y II-8,
お父さんは授業参観に＜全体＞

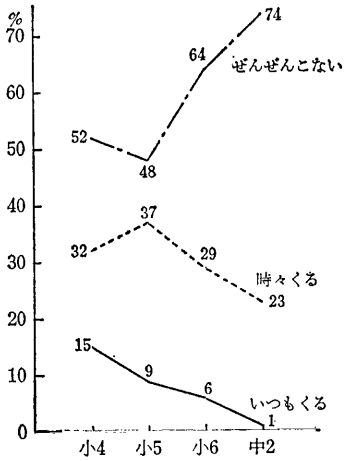

図63 Y II-8,
お父さんは授業参観に＜女子＞

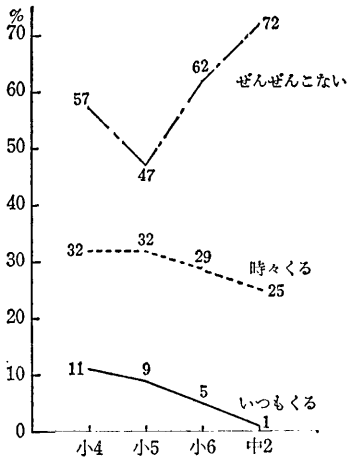

図62 Y II-8,
お父さんは授業参観に＜男子＞

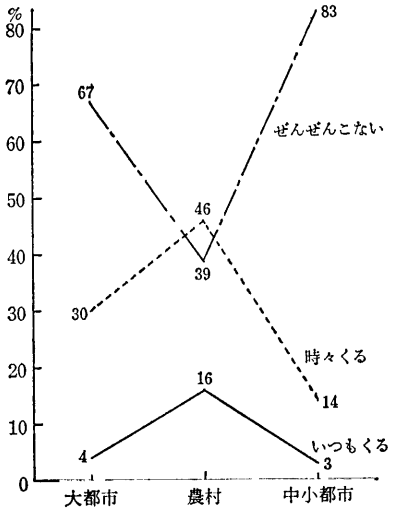

図64 Y II-8,
お父さんは授業参観に＜地域別＞

62, 63, 64) とX II-8「お母さんは授業参観に」(図65, 66, 67, 68)の二問を見よう。「いつもくる」の回答を，父と母について見ると，全体としては母は，父より遙かに参観する率が高い。すなわち小4は母45%，父13%，小5は母43%，父10%，小6は母39%，父5%，中2は母24%，父1%と比較にならないほど母の方が高い。子供の教育への関心は，母の方がはるかに高いことがわかる(図61，図65)。しかし学年が上ると共に，参観率は父母共に減少し，父親は中2で零に近くなる。逆に「ぜんぜん来ない」を見ると，小5は52%とやや低いが，小6が65%，中2が74%で高率となる。母親も，中2で23%となり，小学校の時とくらべ，急上昇している。「時々くる」は，父親が小5で最高の38%で，他は小6，中2とやや減少する。母親は小4の44%から出発して，学年の上ると共に上昇し，小5，48%，小6，51%，中2，51%となっている。

次に男女別では，男子の父親は，女子の父親と同じように学年が上るに従って「いつもくる」率

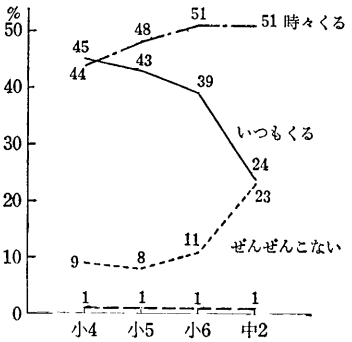

図65　XII-8,
お母さんは授業参観に＜全体＞

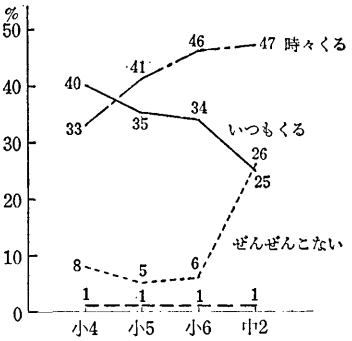

図66　XII-8,
お母さんは授業参観に＜男子＞

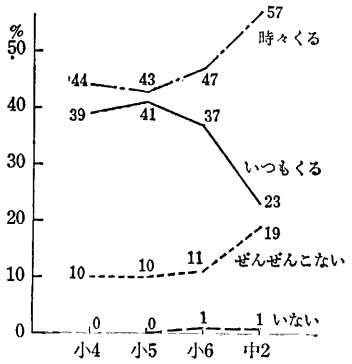

図67　XII-8,
お母さんは授業参観に＜女子＞

が少なくなるが，小4は，女子の父親の方(15%)が男子の父親（11%）より僅かばかり高い。「ぜんぜん来ない」のは，男子の父親が小4 57%で，女子の父親（52%）より稍高い。小6と中2の女

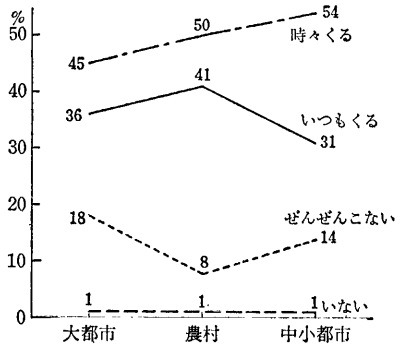

図68　XII-8,
お母さんは授業参観に＜地域別＞

子の父親の方が男子の父親より僅か2%ばかり上回る。これに対して，母親は父親より来る率が全体としても高いことは，先述した通りであるが，その男女差を示す図は，図62，63，66，67である。今，「いつも来る」と「時々来る」を足した百分率を父母別・男女別の表にしてみると，表6のようになる。

表 6

学　年	男子の父	男子の母	女子の父	女子の母
小4	43%	73%	47%	83%
小5	41	76	46	84
小6	34	80	35	84
中2	26	72	24	80

表6によれば，中2を除き，女子の父親は，男子の父親より授業参観率が僅かであるが高い。また男子の母親は，各学年共に女子の母親より授業参観率が低く，その差をとれば，小4で10%，小5で8%，小6で4%，中2で8%ある。

逆に「ぜんぜんこない」という回答の表を作ってみよう(表7)。

表7によれば，男子の父と女子の父の授業参観は，こない率には変わりがないが，男子の母は，小学校段階で女子の母より「こない」率が少なく，中2になると，26%と19%のように逆転している。今，図57と図58から母親のパートタイムとフル・タイムの労働率の和と主婦専業率を，学年別

表 7

学　年	男子の父	男子の母	女子の父	女子の母
小4	57%	8%	25%	10%
小5	47	5	48	10
小6	62	6	64	11
中2	72	26	74	19

・男女別で列記してみると，表8のようになる。

小2から小6迄の母親の労働出勤率はあまり差がないが，中2では10%位，女子の母親の方が出勤率が高い。主婦専業でも，小2から小6迄は，男子・女子の別は殆どないが，中2で急に男子の母54.0%，女子の母45.2%の相違を示し，ほぼ8.8%の差をつけている。この結果から見れば，男子の母の方が家におり，且つ出勤する割合が，女子の母より8.8%乃至10%位低く，暇が多いにも拘らず，授業参観の方が逆に8%も低くなっていることになり，興味ある事実を示している。

最後に地域別を見よう。地域別は図64と図68である。「いつも来る」は，父親が農村地区で最高16%，大都市4%，中小都市3%で極端に低い。この農村地区の高い傾向は，母親も同じで，農村41%，大都市36%，中小都市31%で，中小都市の参観率が一番低い。「時々来る」は，父親がやはり農村46%で最高を示し，大都市30%，中小都市14%と低くなる。一方，母親の方は，逆に中小都市54%で最高，次が農村50%，大都市45%である。「いつも来る」と「時々来る」とを足した率を以下に挙げてみる(表9)。

農村地区は，父も母も一番熱心に授業参観に出席しており，次に父親は大都市，母親は中小都市が二番目に出席しており，父親の出席率の最低は，中小都市(17%)，母親の最低は，大都市(81%)である。

表 9

	大都市		農　村		中小都市	
	父	母	父	母	父	母
「いつも来る」＋「時々来る」	34	81	62	91	17	85

I-bb.　親子のコミュニケーション

次に親子がコミュニケーションにおいてどのていどの繋がりを持っているかを見る問いを考える。ここには3つあり，一つは「私の悩みを親に」伝えるかどうかを問う。もう一つは，親にして貰いたいことを父母がどの程度してくれるかどうかを明らかにし，第3に子供たちがどんなことを親にして欲しいのかを明らかにするものである。

そこで早速，XI-14，YI-12「私の悩みを親に」を見ることにしよう。その結果は，図69，70，71，72，73に示してある。まず全体を見よう。「よく打明ける」は，小4の22.4%から出発して，小5で僅か心持ち上り気味になるが，小6が19.5%，中2が11.4%と学年と共に急落していく。次第に親とのコミュニケーションを断絶していく傾向を示している。「時々打明ける」は，小4の55.6%から小5，小6(58.5%)と僅かに上昇し，中2で48.1%と急落している。今，「よく打明ける」と「時々打明ける」の和を以下に列記してみると表10のようである。

表 10

	小4	小5	小6	中2
「よく打明る」＋「時々打明ける」	78.0	80.3	78.0	59.5

表 8

小2-7，X1-10，Y1-7	小　2		小　4		小　5		小　6		中　2	
	男子の母	女子の母	男子の母	女子の母	男子の母	女子の母	男子の母	女子の母	男子の母	女子の母
「毎日働きに出る」＋「時々働きに出る」	43	44	45.7	42.3	50.8	53.2	46.4	45.6	43.8	54.0
主婦専業(「家にいる」)	55	55	52.0	55.8	47.3	46.2	51.9	54.1	54.0	45.2

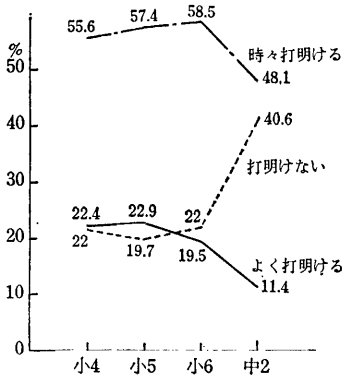

図69　XI-14, YI-12,
私の悩みを親に＜全体＞

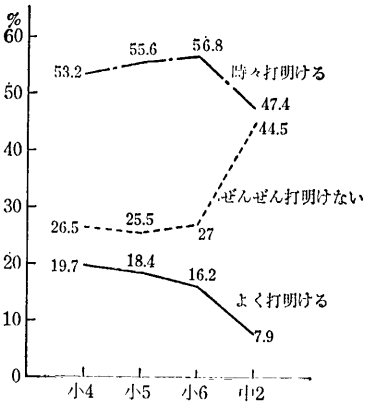

図70　XI-14, YI-12,
私の悩みを親に＜男子＞

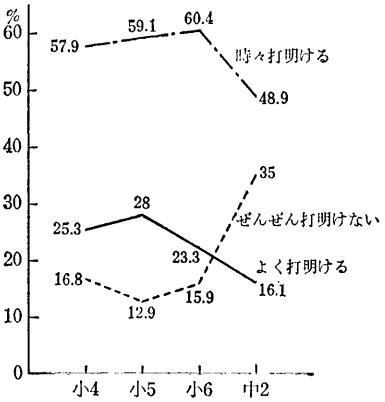

図71　XI-14, YI-12,
私の悩みを親に＜女子＞

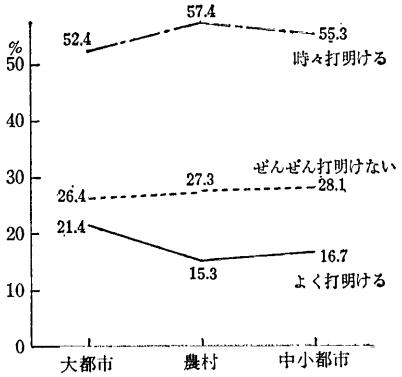

図72　XI-14, YI-12,
私の悩みを親に＜地域別＞

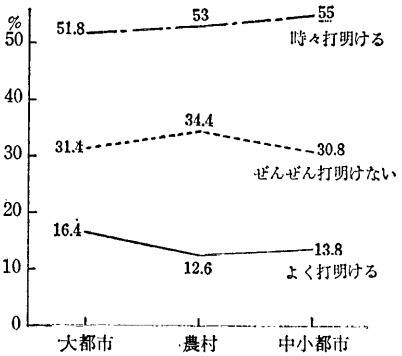

図73　XI-14, YI-12,
私の悩み親に＜地域別・男子＞

ここでは小5が最高(80.3%)で，小6，中2と減少し，中2は 59.5% と急落することが知られる。中2のほぼ40%が親に対して貝のようにふたを閉じる様子が見える。このことは，逆に「打明けない」という回答にも示されている(表11)。

表11

	小4	小5	小6	中2
「打明けない」	22.0	19.7	22.0	40.6

中2が全体としても，親から独立しようとする姿勢を示し，親によって自分の悩みを解決する従来のパターンを避ける傾向が出ている(図69)。

次に男女別を見よう(図70，図71)。男子と女子は，親に悩みを打明ける態度にかなりの違いを示しているように見える。まず「よく打明ける」の回答では，女子は，各学年共に男子より高い。つまり女子の方が全体として男子より親に自分の悩

みを打明ける傾向がある。また男女共に小4，小5の児童がよく親に打明けるという傾向があるが，小5女子が小4，小6の女子より多く打明けている様子が見える。小4男子は小5，小6男子にくらべて，あまり差はないが，僅かに多くなっている。男女について，「よく打明ける」と「時々打明ける」の和と「ぜんぜん打明ない」を並べた表を作って，両者の差を見ることにしよう（表12）。

表12

(四捨五入)	小4		小5		小6		中2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
①「よく打明ける」＋「時々打明ける」	73	83	74	87	73	84	55	65
②「ぜんぜん打明けない」	27	17	26	13	27	16	45	35
①—②	46	66	47	74	46	68	10	30

①「よく打明ける」と「時々打明ける」の和では，男子は小4の73%から小5の74%，小6の73%となり，小5で最高となる。小学生段階では，7割の男子が親に悩みを打明ける。ところが中2男子は，55%に激減している。女子は小4（83%）と，コミュニケーションの高い度合から始まって，小5は，87%と最高になる。小6では84%と減少し，中2女子では65%に急落している。男女共に，小5の段階で，親とのEx-communication 型へ移行する傾向を示している。男女差では，小5の男女差が13%と一番開きを示すことを除いてみるなら，男子よりもすべて女子の方が10%～13%ほど多く親に話す傾向がある。上記の傾向は，②「打明けない」の回答での男女差にも，示されている。すなわち，男子は小4が27%で，小5は26%と減少し，小6は27%となってあまり変化しないが，中2は再び35%と急増する。女子は，男子と同じく小5で最小値13%を記録した後に，小6が16%，中2が35%となって，中2で最大値を示している。最後に①「よく打明ける」＋「時々打明ける」の百分率から，②「ぜんぜん打明けない」を差し引いたもの（①—②）を見る。これを親とのコミュニケーションをするタイプとしないタイプとの差と考えると，既述した男女差を物語っている。そして中2になると，男女共に親とコミュニケーションを絶つ傾向が大変強くなるが，とくに中2男子にその傾向が強くなっていることが示されている。中2男子は，ほぼ2人に1人の割合近くで親に対して沈黙型に変化していくが，中2女子は，3人に1人が沈黙型に変わっている。

こうした中2男子の親に対する Ex-communication 型の増加（「ぜんぜん打明けない」が45%）の傾向は，われわれが既に見てきたⅩⅠ-18「家の中で一番味方してくれる人は」の問いに対して，中2男子が20%「いない」と回答したことと符号を合わせている（図36）。しかもすでに見たように，同じ中2男子の集団は，母親を家の中で一番味方してくれるという回答を39%寄せているのである（図34）。こうして中2男子は，甘え型，孤立型，沈黙型の特異な性格を帯びていることがわかる。中2女子の方は，中2男子ほどに孤立型になっていない。中2女子は甘え型で，母親に対して一番味方してくれるとみなすものは，45%（図35）で，父親には16%であるが，味方してくれるものは「いない」という回答は14%しかない。ここでも男子（20%）より低い（図35）。すでに女子は小5で親へ密着する態度の最高の山場を越え，次第に親離れへの道を小6から歩み始めている傾向があったことを見てきた。しかもこうした移行全体の流れでも女子は，親とコミュニケーションを絶つよりは交信する傾向を，男子よりも強く維持していたのであった。

次に全体としての地域別（図72）を見よう。「よく打明ける」は大都市が最高（21.4%），中小都市（16.7%），農村が最低（15.3%）であり，「時々打明ける」は農村が最高（57.4%），中小都市（55.3%），大都市（52.4%）の順である。「よく打明ける」と「時々打明ける」の和は，大都市（73.8%），農村（72.7%），中小都市（72.0%）とあまり変わりない。「ぜんぜん打明けない」は中小都市が最高（28.1%），農村（27.3%），大都市最低（26.4%）で，これも大差はない。ただし地域別・男女差はやや見られる（図73，図74）。男子は，「よく打明ける」は農村最小（12.6%），大都市最大（16.4%）で，「ぜんぜん打明けない」は，逆に農村最高

(34.4%)，中小都市最小(30.8%)である。女子の方は，「よく打明ける」が農村最小(17.9%)，大都市最大(28.4%)，「時々打明ける」は農村最高(61.6%)，中小都市が次(55.4%)，大都市最小(52.9%)であり，「ぜんぜん打明けない」は，大都市最小(18.6%)，農村が次(20.5%)，中小都市最大(24.9%)である。今「よく打明ける」と「時々打明ける」を加算すると，大都市81.3%，農村79.5%，中小都市75.1%で，中小都市の親と娘とのコミュニケーションが一番悪くなっている。

次に子供の要求を親がどのように受け入れるかをみてみる。小2-16，XⅡ-12，YⅡ-11を見よう。まず小2-16「私のしてほしいことを，イ，おとうさんは<1.なんでもきいてくれる，2.ときどききいてくれる，3.なんにもきいてくれない>：ロ，おかあさんは<1. なんでもきいてくれる 2. ときどききいてくれる 3. なんにもきいてくれない>」の結果を見よう。結果は図75，76，77である。図75によれば，父親は，男子(31.3%)よりも女子(40.1%)の方の要求を「なんでもよくきく」傾向がある。「なんでもよくきく」と「時々きいてくれる」の和でも，男子(93.9%)，女子(96.1%)で，僅かであるが女子の方が上回わっている。「なんにもきいてくれない」は，は，男女とも僅かであるが，女子(3.4%)は男子(5.9%)より低く，女子に対して父親が甘い傾向を裏づけている。

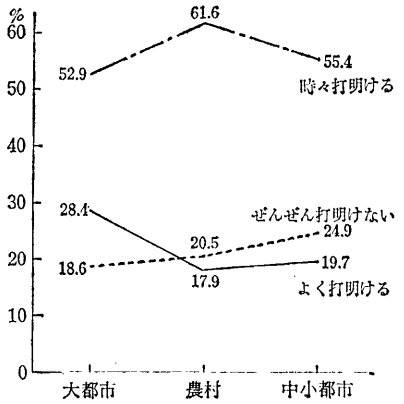

図74　XI-14，YI-12，
私の悩みを親に<地域別・女子>

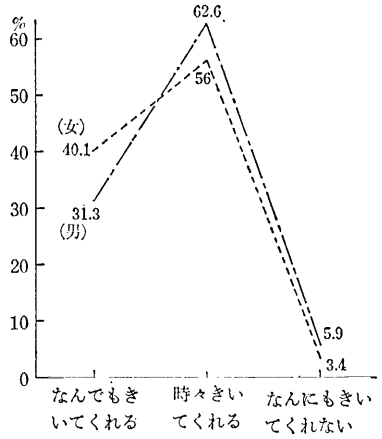

図75　小2-16，
私のしてほしいことをお父さんは<小2>

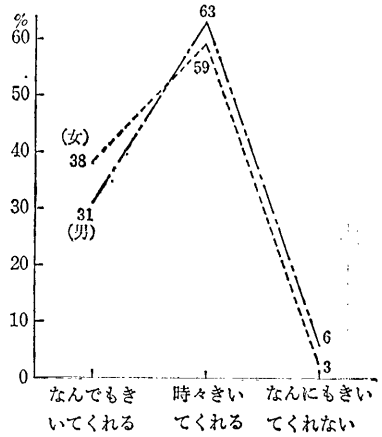

図76　小2-16，
私のしてほしいことをお母さんは<小2>

一方，図76は母親の場合である。ここでも父の場合と同じ傾向があり，女子(38%)は，男子(31%)より「なんでもきいてくれる」母親を多く持っている。「なんでもきいてくれる」と「時々きいてくれる」を足した場合は，男子(94%)，女子(97%)で，やはり女子が僅かに上回わっている。「なんにもきいてくれない」も，男が6%に対して，女は3%と低い。地域別では，父親に差異はなく，母親の場合に多少出てくる(図77)。「なんでもきいてくれる」という回答は，農村が44%で最高，中小都市31%が次に続き，大都市が29%で最低となっている。「なんでもきいてくれる」

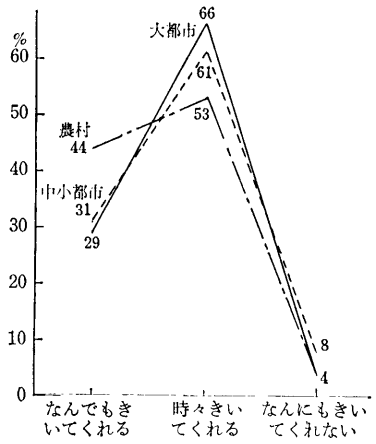

図77 小２-16,
私のしてほしいことをお母さんは＜地域別＞

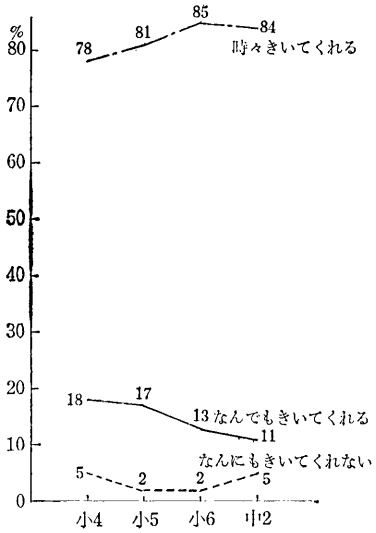

図78 XII-12,
私のしてほしいことを親は＜全体＞

と「時々きいてくれる」の和を見ると，大都市が95％，農村が97％，中小都市が92％となり，農村地区で小２の母親は一番甘い傾向があり，次に大都市，最後が中小都市の順になっている。「なんにもきいてくれない」が中小都市で８％，大都市と農村で同じく４％であることも，上記の傾向に対応している。

次にXII-12「私のしてほしいことを親は」を見よう。これは，前述の小２―16の問いに連続している問いであるが，小２は父と母を分けたのに対して，小４以上中２までに適用されるXII-12は，父母を分けず，親として一括しておいた。その結果は，図78, 79, 80, 81である。まず図78によって全体を眺めてみると，「なんできいてくれる」という子供に甘い親は，小４が18％で最高となり，学年が進むにつれて，漸減していく。そして中２で11％となって最低に達する。しかし「時々きいてくれる」という回答では，小４が最低であっても78％と高率であり，そこから小５を経て小６まで漸増し，小６は85％で最高となり，中２は僅か下ってはいるが，84％となお高い。今，「なんでも聞いてくれる」と「時々聞いてくれる」の和を表にしてみると，表13の通りになる。

表 13

	小４	小５	小６	中２
「なんでも聞いてくれる」＋「時々きいてくれる」	96％	98％	98％	95％

95％以上の親は，子供の要求を大体きいてくれる甘い親になっている。「なんにもきいてくれない」という古いタイプの親は，小４（５％），小５（２％），小６（２％），中２（５％）と無きにひとしい状態である。これを男女別に示したのが図79と図80である。全体として男女差は少ないが，しか

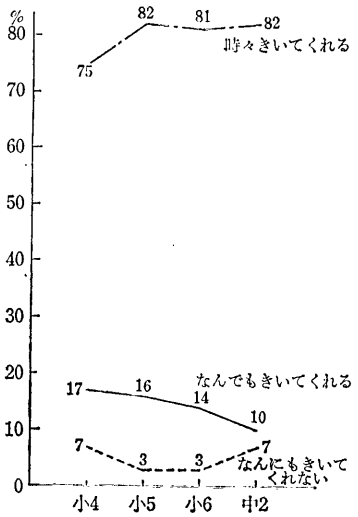

図79 XII-12,
私のしてほしいことを親は＜男子＞

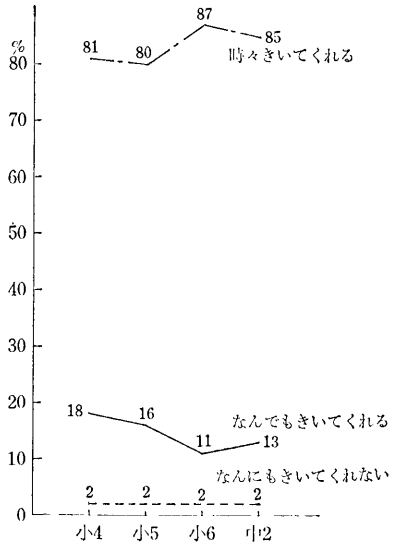

図80　XII-12,
私のしてほしいことを親は<女子>

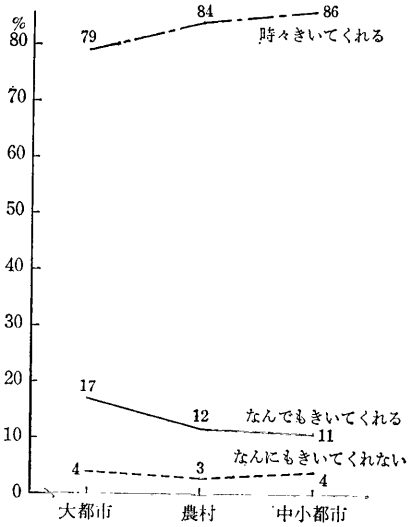

図81　XII-12,
私のしてほしいことを親は<全体・地域別>

し「時々きいてくれる」では，小5を除き，女子の方が男子より高い傾向がある。今，「時々きいてくれる」と「なんでもきいてくれる」の和を，男女別で列挙してみると，表14のようになる。

表14で見れば，小4女子の親は，男子の親より7％余計に子供のしてほしいことをきいてくれる傾向を示し，小6女子の親は3％余計聞いてくれる。また中2女子の親は男子の親より6％余計きいてくれる傾向が見られる。小5女子の親だけは男子の親よりきいてくれる率が僅かに少ない。逆に「なんにもきいてくれない」は，男子の小4，中2の親は7％で，小4，中2の女子の親(2％)より5％高いが，これも上記のことに対応している。現代の親は，女子に対する方が男子に対してより僅かだが甘い傾向がある。

表14

	小4		小5		小6		中2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
「なんでもきいてくれる」＋「時々きいてくれる」	92	99	98	96	95	98	92	98

地域別では（図81），小4から中2迄は，「なんでもきいてくれる」は大都市17％，農村12％，中小都市11％で，大都市の親がやや甘やかし型の傾向があり，中小都市の方が少ない。しかし「なんでもきいてくれる」と「時々きいてくれる」の和では，大都市96％，農村96％，中小都市97％で差がなくなる。「なんにもきいてくれない」は，3～4％で，いずれの地域も低く，差がない。全体として甘やかし型の親が多い傾向があるように見える。

次に親にしてもらいたい内容がどんなものかを探る問いに入ろう。YII-11「私が親にしてもらいたいのは」がそれであり，その結果は，図82，83

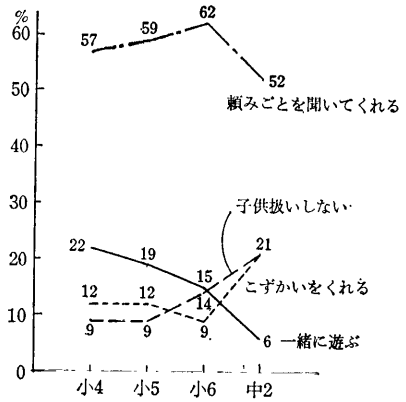

図82　YII-11,
私が親にしてもらいたいのは<全体>

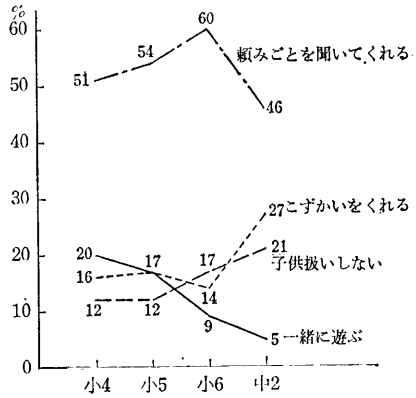

図83 Y II-11,
私が親にしてもらいたいのは<男子>

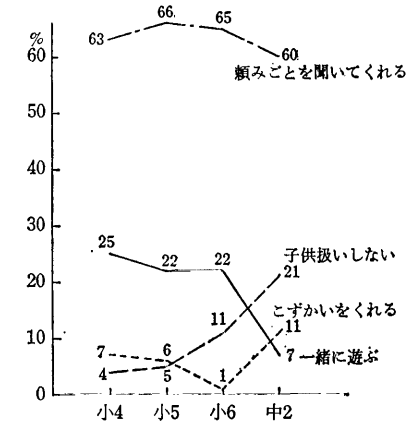

図84 Y II-11,
私が親にしてもらいたいのは<女子>

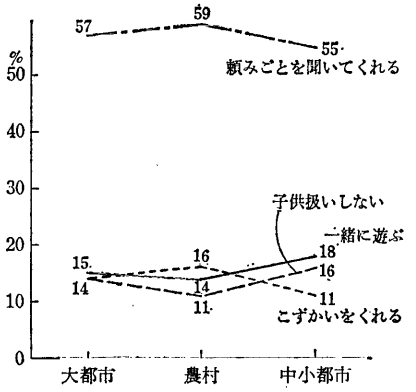

図85 Y II-11,
私が親にしてもらいたいのは<地域別>

84，85である。図82は，学年別・全体を示しているが，その内容は，「頼みごとを聞いてくれる」が第一位であり，以下「一緒に遊ぶこと」，「子供扱いにしないこと」，「こずかいをくれること」が続いている。「頼みごとを聞いてくれる」は，小4が57％で始まり，小5（59％），小6（62％）と上昇して，小6で最高であるが，中2で52％と低下する。「一緒に遊ぶこと」を要求するのは，さすがに低学年に多く，小4が最高の22％，小5が19％と減少し，小6が15％，中2で最低の6％になっている。「子供扱いしないこと」は，子供が次第に親から独立していく傾向を示している。小4，小5の段階ではまだ少なくて9％に留まっているが，小6になると，14％に増加し，中2では21％に急上昇する。子供が一人立ちしようという傾向は，小6から始まり，中2で加速されていく様子が伺える。

以上の問いを男女別にしたのが，図83と図84である。「頼みごとを聞いてくれること」を要求する回答は，全学年共に女子の方が男子より高い。とくに小4で女子は63％，男子51％で，小5は女子66％，男子54％の差異があり，中2では女子60％，男子46％と差が広がっている。「一緒に遊ぶこと」も，全学年共に女子の方が男子より多くなっている。もちろん学年の進むにつれて，女子もその要求は低下するが，小6女子までは22％で，男子にくらべて，低下の度合が少ない。今学年別の男女の差を以下に列挙してみよう（表15）。

表 15

		小4	小4	小6	中2
一緒に遊ぶこと	女	25	22	22	7
	男	20	17	9	5
	女-男	5	5	13	2

次に「子供扱いしないこと」は，男子の方が小学校段階で女子よりかなり高い傾向があり，男女共に学年の進むに応じて高くなり，中2で男女共に21％となって最高値に達する（表16）。

男子の方が小学校段階でも「子供扱い」に敏感に反応するように見える。

表 16

	小 4		小 5		小 6		中 2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
子供扱いしないこと	12	4	12	5	17	11	21	21

最後に「小遣いをくれること」を見よう。ここでも男女差はかなり現われている。一般に男子の方が女子より小遣いに関心を示している。今男女別の表を作ってみると，表17の通りである。

表 17

	小 4		小 5		小 6		中 2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
小遣いをもらうこと	16	7	17	6	14	1	27	11

男子は小学校段階ですでに10パーセント以上の要求度をもち，小5が17％と高くなり，中2では27％と急上昇している。小遣いは，自分で自由に使える点で，親から直接干渉されない行動領域を広げる働きをするように見える。女子も小学段階では小4（7％），小5（6％），小6（1％）と低くかったのが，中2女子で11％に急上昇している。

次に地域別を見よう(図85)。「頼みごとを聞いてくれること」は農村59％，大都市57％，中小都市55％の順である。「一緒に遊ぶこと」は，中小都市が18％で第1位，農村と大都市は14％で並んでいる。「子供扱いにしない」は，中小都市16％が第1位，大都市14％，農村11％の順である。「小遣いをくれることは」農村16％で第1位，大都市14％，中小都市11％と続いている。

I-bc.　親のしつけ

次に「しつけ」を見るＹＩ－9，ＸII-22，ＹII-21，ＸＩ－4「親のしつけは」を見よう。まずＹＩ－9の結果は図86，87，88である。全体として「きびしい」は小5が36％で最高，次が小4と小5が同じで31％，中2が23％で最低である。男女別でも小5が最高で，とくに男子は37％が小5で，親のしつけがきびしいと評価している。中学生のしつけが男女ともゆるくなる傾向がある。「きびしくない」の回答は5％台で低く，男女別ではいずれも低いが，小4と中2で，男子の方が女子より「きびしくない」と考えるものが僅かに増える。「ふつう」の答は，全体では小5が最低であるが，男女別では，男子が小5で最低，女子が小6で最低となる点，一学年ずれている。これに対応して，小6女子の「きびしい」の回答は二番目に多い。地域別でみると，中小都市が僅かに「きびしい」の答が多く，大都市が最低である。「ふつう」は農村が最高であるが，地域差はそれほどない。

次の「親のしつけ」の項目は，ＹII-22「親は

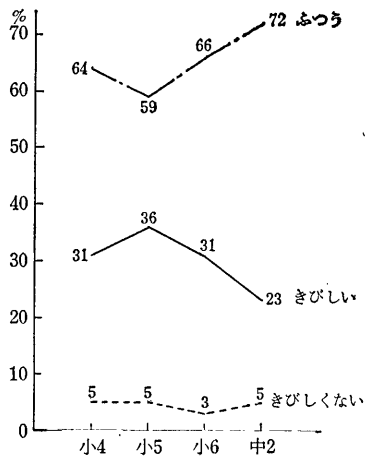

図86　ＹI-9,
親のしつけは＜全体＞

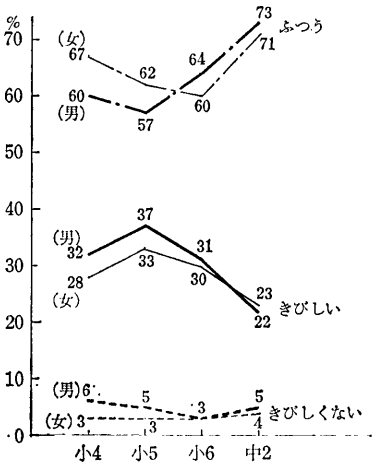

図87　ＹI-9,
親のしつけは＜男女別＞

私の食事のしかたを」どのようにしつけるかに関わる問いである。その結果は図89，90，91，92である。全体として「行儀よく食べなさいとやかましくいう」場合は，小4，小5が25%，24%で変化なく，小6で31%と最高になり，中2で17%と急落する。小6児童に対して親は，一番きびしく食事態度をしつけている。「時々いう」は 50%～52% 台でほとんど学年に関係せずに一定している。「あまりいわない」は，小6で逆に最低の18%となり，中2で最高30%を指している。中学生には，あまり親はしつけなくなる傾向がある（図89)。男女別（図90，91）では，小4，小5，小6男子に対して女子よりも，親は「やかましくいう」ことが多い。とくに小6男子へは35%の親がやかましくいうのに，小6女子へは 26% しかいわない。中2男子には，15%と急減しているが，中2女子へは24%で，ほとんど小6（25%）と変わらない。食事のしつけは，中学で女子に厳しい。「あまりいわない」は中2男子が35%で最高であり，中2女子25%とくらべて高い。また小4女子は30%で女子の最高である。「やかましくいう」と時々いうの和を表にしてみよう（表18)。

表 18

	小 4		小 5		小 6		中 2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
「やかましくいう」＋「時々いう」	82	70	74	74	80	85	66	75

表18では，しつけを受けるのは，小4男子（82%)，小6男（80%）が高く，小6女子（85%）が最高である。最低は中2男子（66%）である。

地域別（図92）では，「やかましくいう」のは大都市が最高28%，中小都市26%が続き，農村が最低で18%である。「あまりいわない」は逆に農村28%，中小都市27%，大都市21%となっている。「時々いう」は農村が最高54%，大都市51%，中小都市47%で最低となっている。「やかましくいう」と「時々いう」とを加算してみると，表19のようになる。

大都市が僅かであるが，一番しつけをやかましくしている傾向が見られる。

表 19

	大都市	農　村	中小都市
「やかましくいう」＋「時々いう」	79	72	73

次の「親のしつけ」の項目は帰宅時間（YⅡ-21）と，寝る時間（XⅠ-4）についてのしつけの問いである。まず前者は，YⅡ-21「帰宅時間について私の親は」であるが，その結果は図 93，94，95 である。帰宅時間について「よく注意する」という回答は，全体では学年の進むと共に低下していく。最高は小4の40%で，最低は中2の24%である。「時々注意する」は，小5，小6が共に56%で高く，小4は47%，中2は50%と低下している。「よく注意する」と「時々注意する」

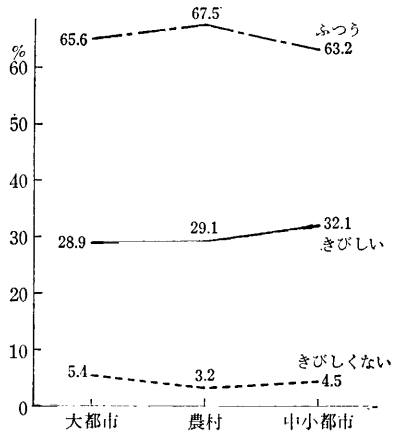

図88 YI-9,
親のしつけは＜地域別＞

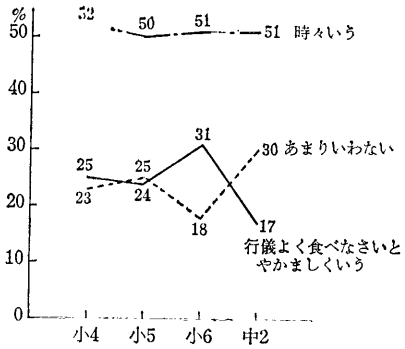

図89 YII-22,
親は私の食事のしかたを＜全体＞

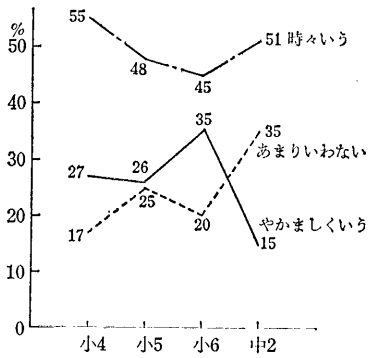

図90　Y II-22,
親は私の食事のしかたを＜男子＞

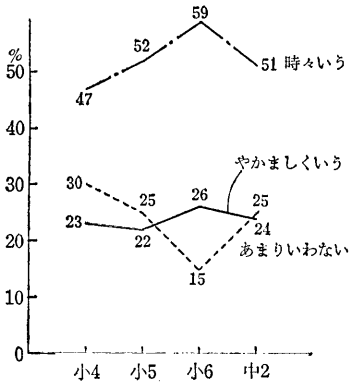

図91　Y II-22,
親は私の食事のしかたを＜女子＞

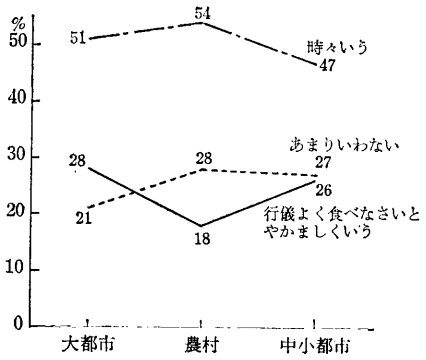

図92　Y II-22,
親は私の食事のしかたを＜地域別＞

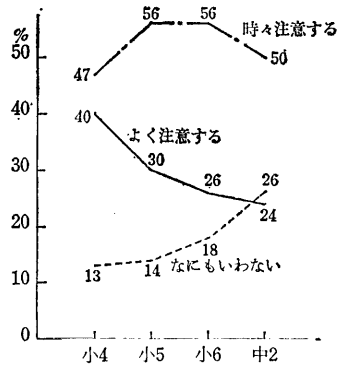

図93　Y II-21,
帰宅時間について私の親は＜全体＞

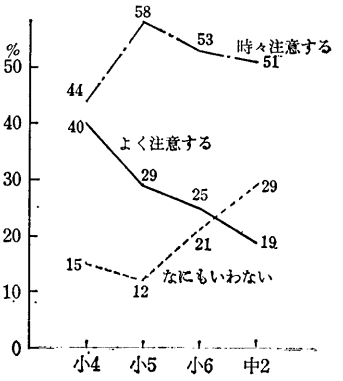

図94　Y II-21,
帰宅時間について私の親は＜男子＞

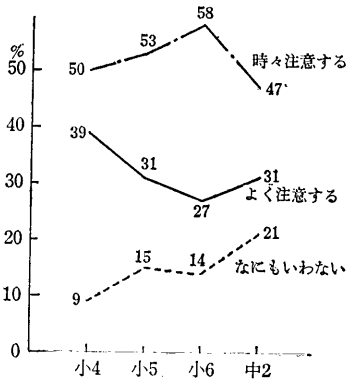

図95　Y II-21,
帰宅時間について私の親は＜女子＞

の和は，小4が87%，小5が86%，小6が82%，中2が76%で，学年の進むと共に帰宅時間について親はやかましくなくなっていく傾向があるが，それでも中2で76%とまだ高率である(図93)。

男女別（図94，95）では，小4，小5，小6の小学生段階では，学年の進むと共に男女共「よく注意する」ことが減少していくが，中2女子では再び上昇して31%となるのは，中2女子に対する親の心配を表わし，男子に対するのと異なっている。「時々注意する」は，小5男子が最高58%で他は低下するが，女子は小6が 58% で最高となる。以上二つの和を列挙してみよう(表20)。

表 20

	小 4		小 5		小 6		中 2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
「よく注意する」＋「時々注意する」	84	89	87	84	78	80	70	78

表20で見ると，男子は小5が 87% で最高となり，以後学年の進むと共に減少し，女子は小4が89%が最高で，あと学年と共に僅かづつ減少している。地域差はない。

次はXI－4「寝る時間について私の親は」の結果を見よう。全体では小4，小5，小6の親の30%前後が，「やかましくいう」が，中2になると，20%に激減する。「時々いう」は小4，小5は同じ59%だが，小6と中2で，上昇して共に64%である。両者を足すと，小4（90%），小5（89%），小6（95%），中2（84%）で，ねる時間は84%から95%迄，親は子供に注意を与えている。「なにもいわない」は小4～5が10%で，小6が5%と低いが，中2で16%と上昇する。これは中学生と小学生の生活の質が違ってくること（たとえば中学生が夜おそくまでする受験勉強の生活）によるであろう。男女別(図97，98)では，小4男子(36%)，小6男子(35%)が女子(小4女子26%，小6女子26%）よりよく注意される。女子は小5が31%で最高である。中2男子は22%で，女子の17%より親が「やかましくいう」度合が多い。「時々いう」は，男子より女子の方が全学年共多い。「なにもいわない」は，小5男子（13%）で小5女子(8%)と違う点がある。

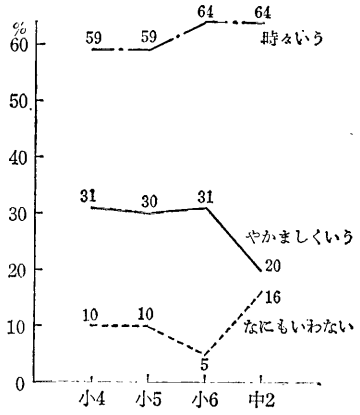

図96 XI-4,
ねる時間について私の親は<全体>

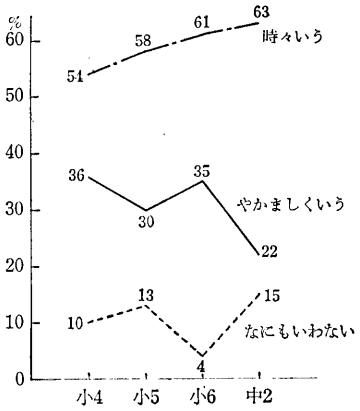

図97 XI-4,
ねる時間について私の親は<男子>

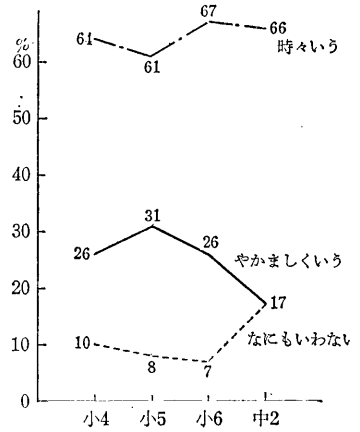

図98 XI-4,
ねる時間について私の親は<女子>

I-bd.　親と子供の友人

次に「親と子供の友人」の項目に入ろう。子供は友人関係を通して自我の独立を遂げていくが，親が子供の友人関係にどのように関わっていくかは，大変重要な問題である。ここでは，こうした親の子供の友人関係に対する態度や対応を見ようとするのである。まず，ＸＩ－８，ＹＩ-20「私の友だちがうちにくると」を見よう。その結果は図99，100，101，102 である。全体として（図99），親は各学年共に子供の友人を「喜んで迎えてくれる」率が60パーセント台あり，大体歓迎する親の方が多い。学年毎の傾向としては僅かに小５，小６の親が小４，中２の親よりは歓迎型である。「いやがる」は各学年共に低率で，小４が 3.9%，中２は１％である。「どちらともいえない」の回答は，積極的に歓迎するのでもなく，反対するのでもない態度で，子供にとってあまり心持のいいものではないであろう。これは，小５が 36.8% で最低で中２が40.4％で最高であり，これもあまり学年毎に相違はない。男女別（図100，101）では，女子の親の方が男子の親より各学年共に僅かだが歓迎する傾向がある。また歓迎型では男子の親は小５が最高（60.4％）であるのに，女子の親は小６が最高（64.7％）である点で，学年が一年ずれている。「どちらともいえない」は，逆に小５男子の親が最低（36.5％）で，小６女子の親が最低（33.2％）である。「いやがる」は男女共低率で，ほとんど変わりはない。

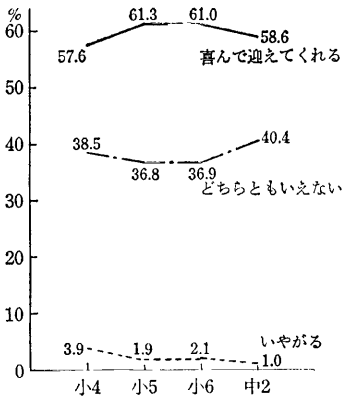

図99　ＸＩ-8，ＹＩ-20，
私の友だちがうちにくると親は＜全体＞

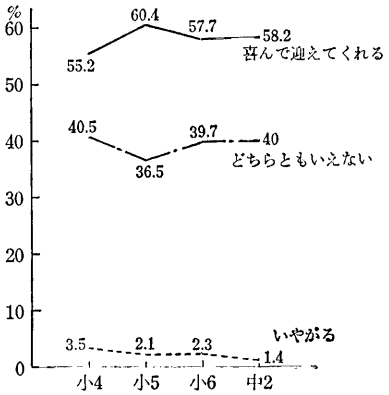

図100　ＸＩ-8，ＹＩ-20，
私の友だちがうちにくると親は＜男子＞

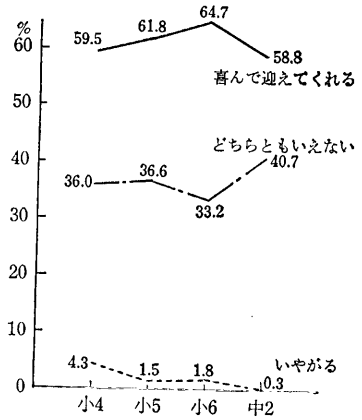

図101　ＸＩ-8，ＹＩ-20，
私の友だちがうちにくると親は＜女子＞

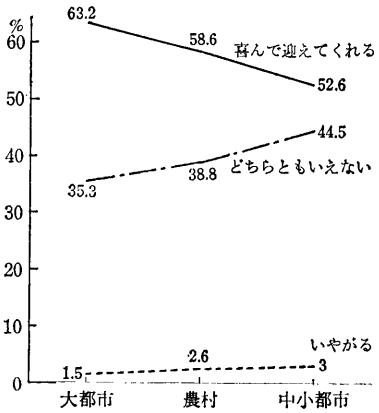

図102　ＸＩ-8，ＹＩ-20，
私の友だちがうちにくると親は＜地域別＞

地域別（図102）では，大都市に歓迎型の親が多く，63.2％ と最高であり，次が農村の 58.6％，最低が中小都市の 52.6％ である。逆に「どちらともいえない」は，中小都市の親が最高の44.5％で，次が農村の 38.8％，最低が大都市の 35.3％である。この中小都市・農村・大都市の順は，「いやがる」という回答でも，低率ながら現われており，中小都市 3.0％，農村 2.6％，大都市 1.5％となっている。大都市の親と中小都市の親には，子供の友人への歓迎態度にかなりの相違が見える。

次にXII-18「友だちづき合いのことを，私の親は」の問いを見よう。その結果は図103，104，105，106である。全体（図103）として「しょっちゅう口をはさむ」型の親は，全学年共に低率で10％以下であるが，その中でも小4と中2がやや高い傾向がある。「時々注意する」は，小5が 45％で僅かに高いが，全学年共に42～45％台で，あまり変化がない。「しょっちゅう口をはさむ」と「時々注意する」を足すと，表21のようになる。

表 21

	小4	小5	小6	中2
「しょっちゅう注意する」＋「時々注意する」	51％	49％	45％	50％

ここでも小4と中2で 50％ を越える親が，友人関係に注意し，干渉しているが，一方「あまり口出ししない」親も多く，49％ から 55％ がこの不干渉の態度を取っている。中でも小6の親は，55％がこの不干渉的態度である。友人関係について自由にさせている親の方が干渉型の親より，傾向として僅かに多い目である。

次に男女別（図104，105）を見よう。「しょっちゅう口をはさむ」親は，男女共に低率であるが，小4男子，小5男子の方が女子より多い。「時々注意する」では，女子の親の方が男子の親よりかなり多い。ここでは男子は41％～38％台で，ほとんど変化がないのに，女子は小4女子の46％に始まり，小5が51％で最高，小6が45％，中2が47％ である。今「しょっちゅう口をはさむ」と「時々注意する」の和の男女別の表を作ってみよう（表22）。

表 22

	小 4		小 5		小 6		中 2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
「しょっちゅう口をはさむ」＋「時々注意する」	52	49	45	53	43	48	46	55

この表によれば，小4男子は，小4女子より僅かに多く友人関係について注意されるが，後の小5，小6，中2では，女子の方が注意を受けている傾向がある。男女差は，小5が8％，小6が5％，中2が9％であり，中2女子がとくに男子より多く親から友人関係について注意されるケースが多くなるのは，思春期を迎えて男女関係が問題になる年頃であるからのように思われる。「あまり口出ししない」では，小4を除いて男子の親の方が女子よりかなり多い傾向がある（表23）。

表 23

	小 4		小 5		小 6		中 2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
あまり口出ししない	45	51	54	46	57	52	55	45

表23によれば，小5の男女差9％，小6が5％，中2が9％と男子の親は，女子より子供に不干渉の態度を取っている。地域差（図106）は殆どない。現代の親は，傾向として子供の友人関係に不干渉の態度の方が干渉する態度より僅かに高いように思われる。

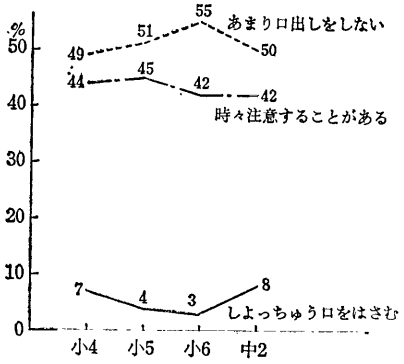

図103　XII-18，
友だちづき合いのことを私の親は＜全体＞

次にＹII-17「友だちから電話がかかると，親は」を見よう。結果は図107，108，109である。全体（図107）として「そばで聞いている」程度の

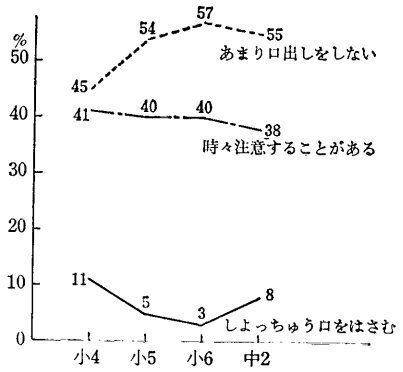

図104　XII-18,
友だちづき合いのことを私の親は＜男子＞

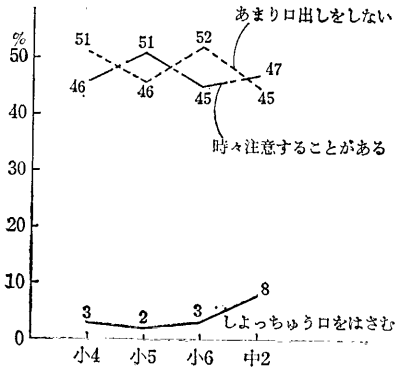

図105　XII-18,
友だちづき合いのことを私の親は＜女子＞

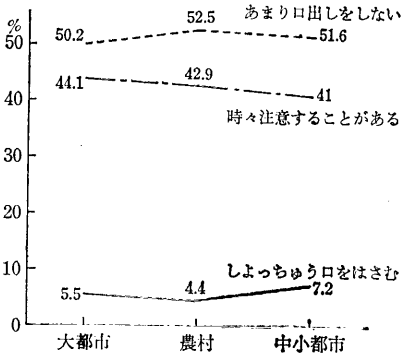

図106　XII-18,
友だちづき合いのことを私の親は＜地域別＞

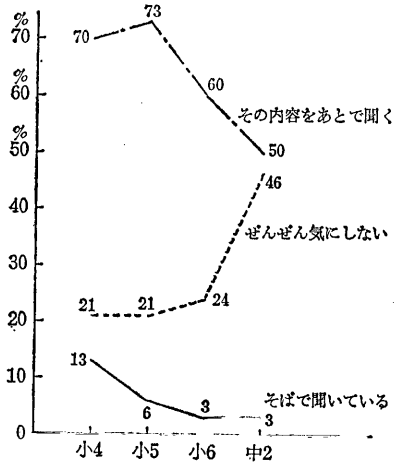

図107　YII-17,
友だちから電話がかかると親は＜全体＞

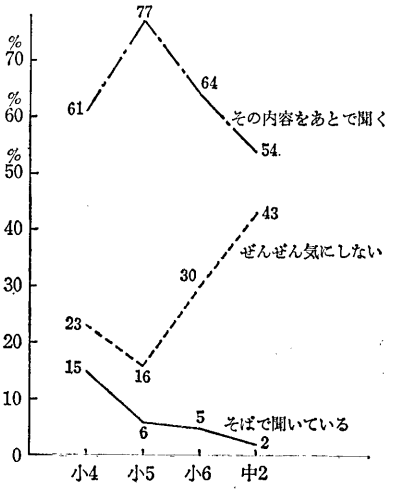

図108　YII-17,
友だちから電話がかかると親は＜男子＞

関心を示す親は低率であるが，小４（13％）を最高とし，後は学年の進むと共に減少する。次に「その内容を後で聞く」という親は，全体として高い率を示している。とくに小４（70％），小５（73％）で，小５が最高であるが，小６で60％に下落し，中２は50％に急落している。「ぜんぜん気にしない」親は，小４，小５，小６では，それぞれ21％，21％，24％と20％台であるが，中２で46％に急上昇している。

今，「そばで聞いている」と「その内容を後で聞く」を足した，子供の友人関係に関心を示す親

は，表24に示されるとおりである。

表 24

	小4	小5	小6	中2
「そばで聞いている」＋「その内容を後で聞く」	83	79	63	53

表24で見ると，全体として子供の友人関係に関心を示す親は，小4の83%を皮切りに学年の進むにつれて減少傾向にある。これは「ぜんぜん気にしない」が学年の進むにつれて増加傾向にあるのと裏腹である。

男女別は図108と図109で示されている。「そばで聞いている」の回答は，男女の親にあまり変わりがない。小4男子が小4女子より少し高いのと，小6男子が小6女子より少し高いこと，および中2女子が男子より僅かに高い位がちがっている。一方，「その内容を後で聞く」は，男女でかなり相違している。一般的に言って，小4，小6は男子の方が女子より低い。小4男子は61%，女子は70%，小6男子は64%，女子は71%である。逆に小5男子は77%，女子は68%で，男子が高く，中2男子は54%，女子は45%で，男子が高い。今，「そばで聞いている」と「その内容をあとで聞く」の男女別の和と，「ぜんぜん気にしない」の男女別の表を以下に作ってみよう(表25)。

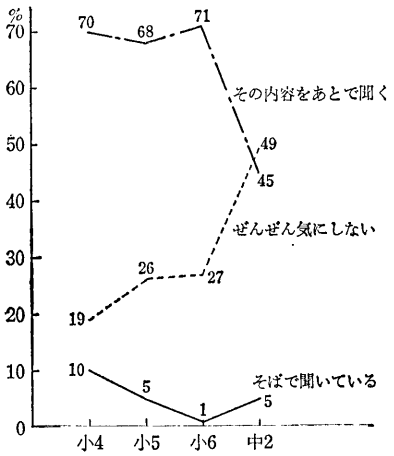

図109 Y II-17,
友だちから電話がかかると親は＜女子＞

表 25

	小 4		小 5		小 6		中 2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
①「そばで聞いている」+「その内容を後で聞く」	76	80	83	73	69	72	56	50
②「ぜんぜん気にしない」	23	19	16	26	30	27	43	49
①—②	53	61	67	47	39	45	13	1

表25では，関心を持つ親は，男子が小5男子83%を最高にして小6，中2と次第に不干渉になっていく。これは男子の友人関係に「ぜんぜん気にしない」親の傾向に一致している。女子の「ぜんぜん気にしない」親は，学年と共に増加している。①「そばで聞く」＋「その内容を後で聞く」の和から，②「ぜんぜん気にしない」を差し引いた①—②の値は，それほどの意味はないが，ざっと男女の傾向を裏書きするであろう。親は，小5男子の友人関係に最も高い関心（67%）をもつ。次が小4女子が61%である。小6では女子の方に関心が向い，中2は減少傾向とはいえ，中2女子よりは男子に注意を向けている。この傾向は，前問X II-18「友だちづき合いのことを，親は」の表22とやや矛盾しているように見える。しかし表22では実質的持続的な友人関係への親の干渉度が問題となるが，表25は，単なる電話上の交際への親の干渉度がテーマになっている点に，相違が出てくるであろう。地域差は，この問いの結果にはない。

I-be. 親と受験勉強

現代の子供に対して，社会の側から直接に強いインパクトを押しつける社会慣習または制度は，入学試験であり，それへの対応としての受験勉強は，家庭生活と学校生活すべてにわたって子供の生活態度，倫理観，価値観を特定の方向に押しまげる力をもっている。

まず，「受験勉強について親は」どのような関心を示しているかを，Y II-25で問うてみる。その結果は，図110，111，112である。全体として「いつも話題にする」は，小4が24%で最高で，

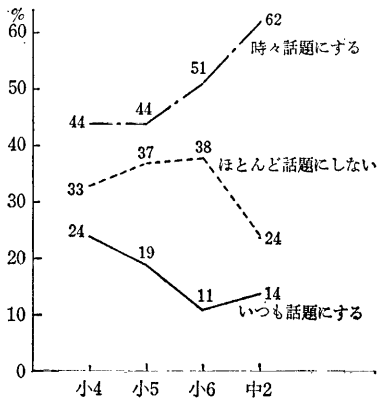

図110　Y II-25,
受験勉強について親は＜全体＞

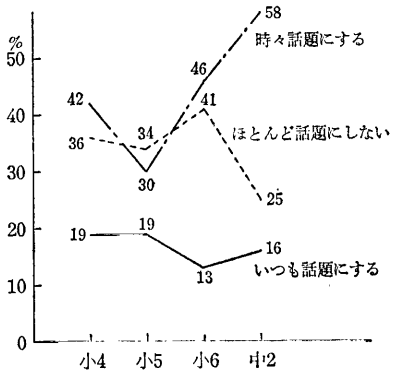

図111　Y II-25,
受験勉強について親は＜男子＞

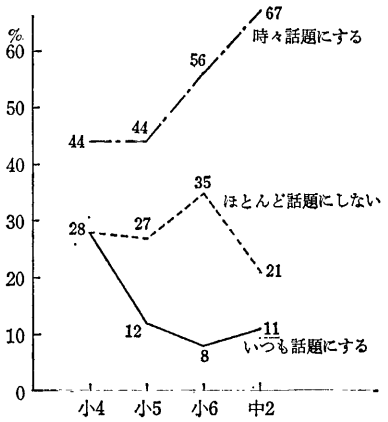

図112　Y II-25,
受験勉強について親は＜女子＞

小5（19%），小6（11%）と低くなるが，中2で再び14%と頭をもたげ出している。「時々話題にする」は，小4の44%を皮切りに，小5の44%，小6の51%，中2の62%と，中学へ向うにつれて，必然的に増加している。この両方を足してみると，表26のようになる。

表26

	小4	小5	小6	中2
「いつも話題にする」＋「時々話題にする」	68	63	62	76

表26によれば，小4から小6まで漸減するが，中2で一挙に上昇する。しかしこの問題が小学校でも60%以上の親の関心を惹きつけていることがわかる。

次に「ほとんど話題にしない」は，表26とはほぼ逆に，小4から小6まで33%，37%，38%と漸増し，中2で24%に急減している。

次に男女別（図111，112）を見よう。「いつも話題にする」は，小4女子の親が28%と最高を示すが，女子の親は小5の12%，小6の8%と激減し，中2女子で11%と僅かに増加している。男子は小4，小5の方が19%と高く，小6で13%，中2で16%である。「時々話題にする」は，男子で小5男子の30%が最低で，小6の46%，中2の58%と急増している。女子の親は男子より一層高く，小4で44%，小5の44%，小6の56%，中2の67%で，一オクターブ高い感じがする。「ほとんど話題にしない」は，男女共学年全体でよく似たパターンであるが男子の親の方が全学年共に高い。地域差は見られない。

こうした受験戦争時代には，親の方も，意識的無意識的に子供の勉学の尻をたたきたくなる。こうした親の態度に，子供はどのように反応するか。X II-25「勉強しなさいと親がいうと」は，こうした子供の反応を見る問いである。その結果は，図113，114，115，116に示されている。全体としてみると（図113），「すなおに勉強する」は，低学年ほど高く，小4の43%，小5の42%，小6で36%と4割り方が素直に親の言うことを聞いている。しかし学年の進むにつれて低下し，中2は

26%に低下している。それでも「いやいや勉強する」ものが，全学年を通じて，ほぼ変らずに44%あるのは，中学段階迄は，まだ親のいうことを聞く傾向が残っているのと，何よりもまず受験戦争という来たるべき戦争が子供たちの生活に侵透しているからであろう。「素直にする」と「いやいやする」とを足すと，表27の如くになる。

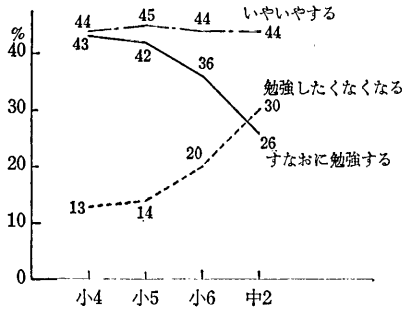

図113 XII-25,
勉強しなさいと親がいうと＜全体＞

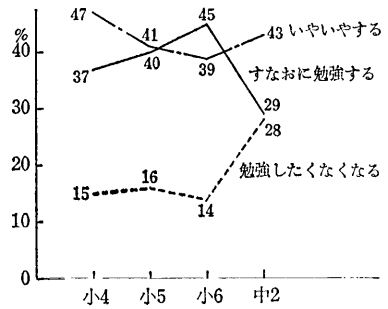

図114 XII-25,
勉強しなさいと親がいうと＜男子＞

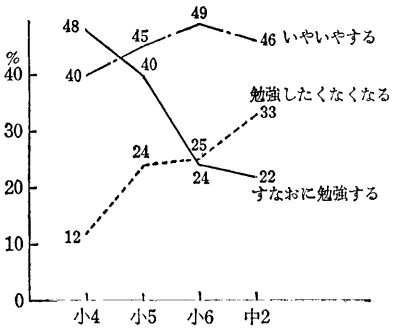

図115 XII-25,
勉強しなさいと親がいうと＜女子＞

表27

	小4	小5	小6	中2
「すなおにする」＋「いやいやする」	87	87	80	70

表27も，上記の傾向を裏書きしている。

一方「勉強したくなくなる」のは，小4の13%を最低にして，小5の14%，小6の20%と上昇し，中2の30%で最高になる。受験戦争がなければ，この傾向はもっと高くなるにちがいない。

次に男女別（図114，115）を見よう。まず「すなおにする」は，小4女子の48%と高い数値を除けば，小5で男女同じ40%，小6では男子45%，女子25%と逆転し，中2男子29%，中2女子22%となり，大体男子の方が女子より素直に勉強している。「いやいやする」も，小4女子の47%という高率を除けば，大体男子の方が女子よりいやいやながらも勉強している。逆に「勉強したくなくなる」は，小4女子を除き，女子の方が高く，女子の親への反抗心は男より高い。

地域別（図116）では，「すなおにする」の答は農村40%で最高，大都市36%，中小都市31%の順である。「いやいやする」は，中小都市が最高の51%，次が大都市45%，農村は39%で最低である。「すなおにする」と「いやいやする」を足すと，中小都市82%，大都市81%，農村79%で大差なくなる。「勉強したくなくなる」は，あまり差はないが，農村22%で最高，大都市19%，中小都市18%の順である。

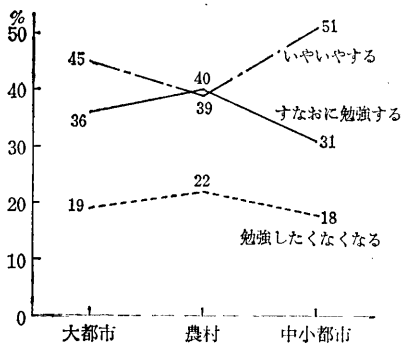

図116 XII-25,
勉強しなさいと親がいうと＜地域別＞

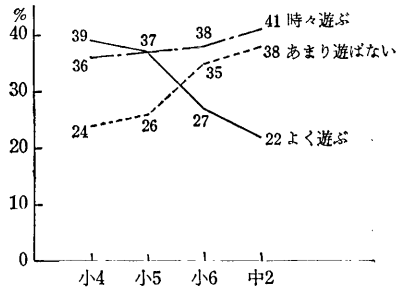

図117　Y II-1,
私はきょうだいと＜全体＞

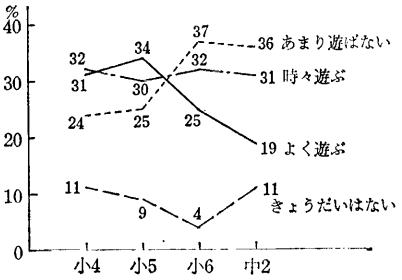

図118　Y II-1,
私はきょうだいと＜男子＞

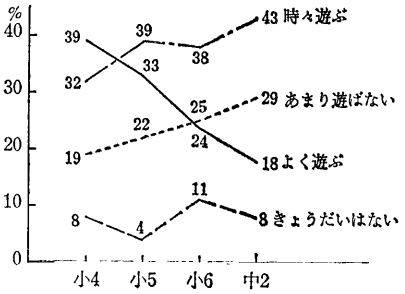

図119　Y II-1,
私はきょうだいと＜女子＞

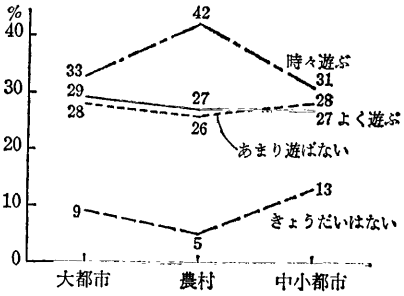

図120　Y II-1,
私はきょうだいと＜地域別＞

I-c.　きょうだい

家庭の中の最後の項目は，きょうだいである。最近はきょうだい関係が稀薄になってきたという印象があるが，どうであろうか。Y II-1「私はきょうだいと」の結果は，図117，図118，図119，図120である。「よく遊ぶ」は，低学年程高く，高学年になると低くなる。すなわち，小4が39%，小5が37%，小6が27%，中2はさらに低下し，22%となっている。逆に「あまり遊ばない」は，低学年程低く，高学年になるにつれて高くなる。すなわち，小4の24%に始まり，小5(26%)，小6(35%)，中2で38%である。「時々遊ぶ」は，小4が36%で学年と共に漸増し，中2で41%となる。「よく遊ぶ」と「あまり遊ばない」の率が逆転するのが，小6の段階である。男女別は図118と図119に示されている。「よく遊ぶ」は，小4男子が小4女子より8%低い外は，大体男女が同じ傾向である。これに対して「あまり遊ばない」は，男子の方が全学年を通じて高い。男子だけを見ると，きょうだい同志で遊ばない男子は，小4，小5でそれぞれ24%，25%あるが，小6では急増して37%になり，中2も36%の高率を示す。これに対して，女子は，小4が19%で，小5の22%，小6の25%，中2の29%と漸増していく形であって，女子も学年と共に孤立型に向うが，男子の37%台とくらべ，女子は最高でも29%である。男子の方がきょうだい同志でも孤立型の傾向が見える。今，学年別・男女別の表28を以下に記しておく。

表28

	小4		小5		小6		中2	
	男	女	男	女	男	女	男	女
よく遊ぶ	31	39	34	33	25	24	19	18
時々遊ぶ	32	32	30	39	32	38	31	43
あまり遊ばない	24	19	25	22	37	25	36	29
きょうだいはいない	11	8	9	4	4	11	11	8

「時々遊ぶ」は，小4は同一であるが，小5から中2迄，女子の方が男子より高く，やや漸増気

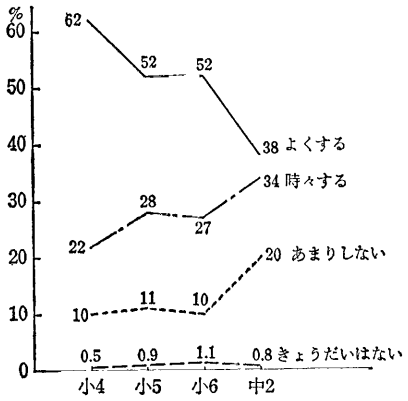

図121 XII-1,
私はきょうだいげんかを＜全体＞

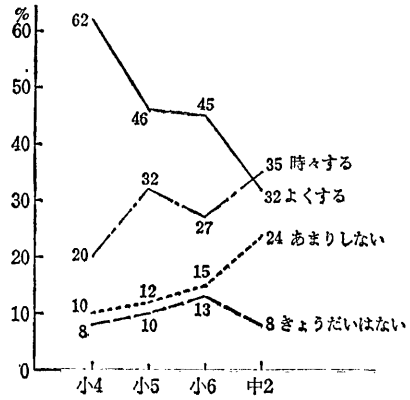

図122 XII-1,
私はきょうだいげんかを＜男子＞

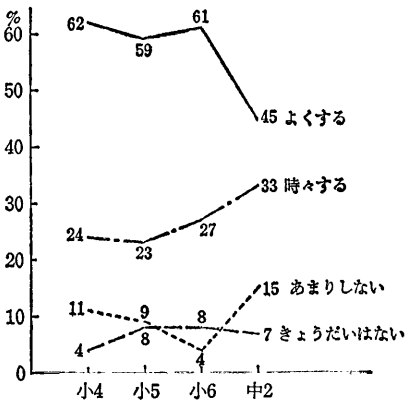

図123 XII-1,
私はきょうだいげんかを＜女子＞

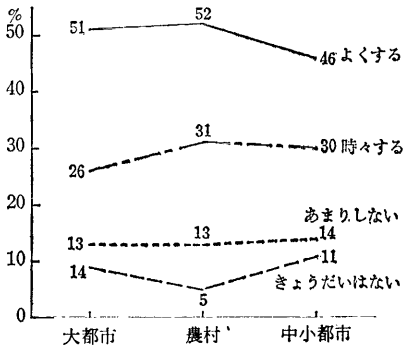

図124 XII-1,
私はきょうだいげんかを＜地域別＞

味である。

地域別（図120）では，「よく遊ぶ」と「あまり遊ばない」は，地域差がない。ただ「時々遊ぶ」の回答は農村が高く（42%），大都市（33%），中小都市（31%）がやや低い。

次にXII-1「私はきょうだいげんかを」の結果をみよう。結果は，図121，122，123，124である。けんかをよくするのは，きょうだいの仲がかなりよい，あるいはコミュニケーションがよくあることを意味しているであろう。また「あまりしない」は，仲の好いきょうだいである場合もあるし，また交信がとだえがちのきょうだい同志の関係であることもあろう。全体としてみると（図121），けんかを「よくする」という答えは，低学年ほど多く，高学年ほど低くなっている。小4で62%，小5，小6で52%もあったのが，中2で38%に低下している。これに対して，「時々する」は学年の進むに従ってほぼ上昇している。すなわち，小4の22%，小5の28%，小6の27%，中2の34%である。「あまりしない」は，小学生では10%台で変らず，中2で20%に急上昇する。

男女差（図122，図123）はどうか。「よくする」は，小4では男女共に62%あるが，小5，小6で男子が女子にくらべ，落込みが急で，小5男子46%，小6男子45%である。女子は小5女子59%，小6女子61%とまだ高率である。中2女子ではじめて45%となる。「時々する」は，小5男子が32%（小5女子は23%）であることを除けば，男女差は少ない。「あまりしない」も，小4男女はほ

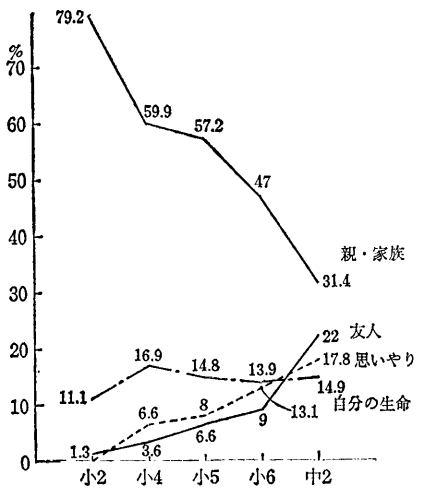

図125　小2-18, XII-9, YII-9,
私にとって一番大切なものは<全体>

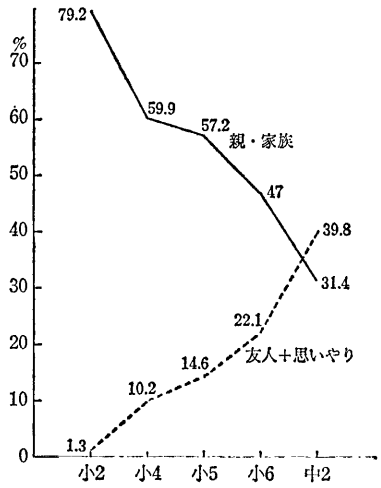

図126　小2-18, XII-9, YII-9,
私にとって一番大切なものは<全体>

ぼ同じであるが，小5，小6，中2で男子は漸増していくのに，女子は小6まで落ち，中2で15%に昇るだけである。男子の方が女子にくらべ無口で，孤立型の傾向が見えよう。

地域別では（図124），ほとんど差がないが，農村と大都市に「よくけんかする」率が，中小都市より少し高い程度である。

最後に子供が primary group のうちでも最も原緒的人間的結合である家族関係から，どのような形で離脱し，独立を次第にかちとっていくかを見るために，本来は「自己」のカテゴリに属する小2-18，XII-9，YII-9「私にとって一番大切なものは」の問いを見ることにしよう。なぜなら，この問いは，タテ関係の家族中心の価値意識から，どのように離脱して，ヨコ関係を示す友人関係・人間関係に移行していくかを如実に示す問いだからである。

この問いの結果は，図125，126，127，128に示されている。全体（図125）として，子供たちが最も大切であると意識されている対象は，いぜんと

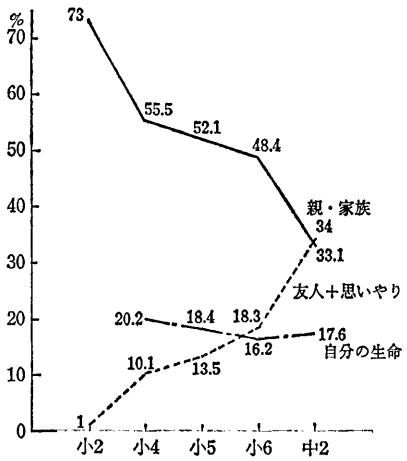

図127　小2-18, XII-9, YII-9,
私にとって一番大切なものは<男子>

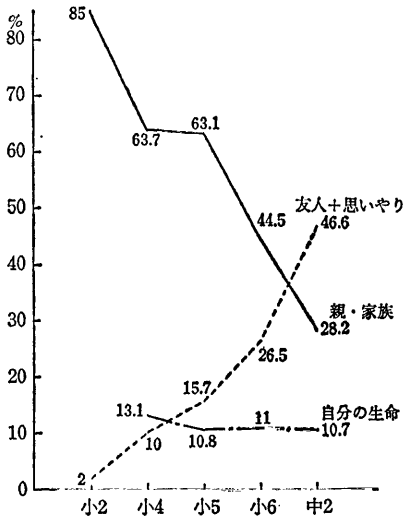

図128　小2-18, XII-9, YII-9,
私にとって一番大切なものは<女子>

して親・家族である。とくに低学年になるほど，この傾向は強く，高学年になるほど，この傾向が弱くなっていく。小2では79.2%も家族・親中心であるが，小4で59.9%に減り，小5で57.2%小6で47%と1/2を切ってしまい，中2では31.4%と1/3に下落していく。そこで子供の価値意識において，親，家族を中心とする傾向は，小6段階で過半数を割ることになる。子供たちの第2の関心事または大切と考えるものは，自分の生命・自分である。これは小2の段階から11.1%あり，17%を越えない範囲で中2までほぼ各学年毎に見られる。第3位を占めるものは，思いやり，やさしさである。これは学年の進む毎に漸増していく。小2では零であったものが中2では17.8%まで漸増する。次が友人である。これも思いやりと同じく，低学年から高学年にかけて漸増していき，中2で22.0%と上昇する。親・家族は，子供にとって先天的関係であると共に，父と子・母と子のように，あるいは兄弟・姉妹のようにタテ構造の人間関係であるが，思いやりとは，対等な他者に向ける心情であるし，友人はもちろん対等なヨコ構造の人間関係である。そこで，親・家族を中心とした先天的タテ構造中心の価値意識から，思いやり，友人を中心とする後天的ヨコ構造の価値意識に，どの段階で移行するか，を見るために思いやりと友人とを加算したものと，親・家族の率だけを示す図126を作成してみた。図126によれば，親・家族を大事とする意識と，友人・思いやりを大事とする意識が逆転するのは，中2の段階であり，タテ型意識は31.4%に減り，ヨコ型意識は39.8%に増加するのである。中学段階で，こうしたタテ構造とヨコ構造の人間関係が交錯し，ついに友人のような対等の人間関係を親・家族より優位におく価値意識が成立しはじめることがわかる。

これを男女別で見てみよう。その結果は，図127と図128である。この両図で見ると，親・家族を中心とするタテ構造的価値意識を，小学校段階の前半の小2，小4，小5では女子の方が男子よりもかなり多く維持している。しかるに小6になると，女子は44.5%に激減するのに反し，小6男子は48.4%とまだタテ構造型を示している。中2になると，女子は一層このタテ構造型を減少させ，28.2%に減るのに対し，男子はまだ33.1%を残している。また中2女子は，友人，思いやりを第1とするヨコ型構造の価値意識を，46.6%とほぼ1/2にせまる勢いで持ちはじめるのに対して，中2男子は，34.1%と女子にくらべ13.5%も低いヨコ意識をもつのみである。女子は中学段階ですでにタテ構造を抜け切りつつあるが，男子は，タテ（33.1%）とヨコ（34.0%）がほぼ同一水準にあり，一種のambivalenceの状況に陥っているように見える。

こうして中学2年の段階で，女子を先頭にして家族中心の価値観を抜け出し，人間の対等関係の価値観を次第に身につけていくさまが読みとれるであろう。

VII
ま　と　め

われわれは，家庭に関する子供の価値意識を見てきた。これを以下のような箇条書きにまとめてみることができよう。

1. 子供は一般に自分の家庭を楽しいと見る傾向があり，とくに女子に多い。
2. 家事の手伝いは小5が最も高く，いわゆる大変「よい子」であるが，それをこえては学年の進むと共に減り，中2でとくに減る。女子の方が男子よりよく手伝う。
3. 子供は父より母を頼りにする傾向が強く，とくに中2は圧倒的に母に依頼する傾向が高い。
4. 中学生に孤立型が増えるが，とくに中2男子は5人に1人の割合でこの型が出る。
5. 現代の親は子供に甘い傾向が強い。
6. 親のしつけは，小5が最高で，あとは学年の進むと共におろそかになる。
7. 子供の友人に親は割方好意を示す。また友人関係に口出ししない親は5割位ある。小6女子の親は子供の友人関係に関心を示す傾向がある。
8. 受験勉強は子供に対する精神的圧迫となり，多くのかげりを与えている。
9. 兄弟関係は，一般に中2で交わりを失う傾向がでてくる。

10. 家族というタテ型人間関係から友人などのヨコ型人間関係に関心を移していくのは，小6から始まり，中2ではっきり成立していく。とくに中2女子は中2男子よりこの点で進んでいる。

参考文献

Allport, G.W. *The use of personal documents in psychological science.* New York: Social Science Research Council, 1942.

Angell, R.C. *Free society and moral crisis.* Ann Arbor: University of Michigan Press, 1958.

Ausbel, D.P., and Sullivan, E.V. *Theory and problems of child development.* New York: Grune and Stratton, 1957.

Berelson, B. Content analysis. In G. Lindzey (ed.), *Handbook of social psychology* (vol. 1). Massachusetts: Addison-Wesley, 1954.

Brandt, R.B. *Ethical theory.* New Jersey: Prentice-Hall, 1959.

Brandt, R.B. *Value and obligation.* New York: Harcourt, Brace and World, 1961.

Broom, L., and Selznick, P. *Sociology.* Tokyo: Maruzen, 1968, (Asian Edition).

Cooley, C.H. *Social organization.* New York: Charles Scribner's Sons, 1937.

Downie, R.S. *Roles and values.* London: Methuen, 1971.

Elkind, D. *Child development and education.* London: Oxford, 1976.

Festinger L., and Katz, D. *Research methods in the behavioral science.* New York: The Dryden Press, 1953.

Findlay, J.N. *Values and intensions.* London: George Allen and Unwin, 1961.

Freedman, R. et al. *Principles of sociology.* New York: Henry Holt, 1952.

Goode, W., and Hatt, P.K. *Methods in social research.* New York: McGraw-Hill, 1952.

Graham, A.C. *The problem of value.* London: Hutchinson University Press, 1961.

Graham, D. *Moral learning and development.* New York: John Wily, 1972.

Hare, R.M. *The language of morals.* London: Oxford, 1952.

Hare, R.M. *Essays on the moral concepts.* London: Macmillan, 1972.

姫岡　勤・上子武次ほか『現代のしつけと親子関係』川島書店，昭和39年.

Hyman, H. *Survey design and analysis.* New York: Free Press, 1955.

岩波講座『哲学9・価値』岩波書店，1968.

Johnson, H.M. *Sociology.* New York: Harcourt, Brace and Co., 1960.

加藤隆勝・遠藤昭彦「道徳性の本質と道徳教育」『道徳教育の進歩』酒井書店，昭和44年.

Kohlberg, L. *The cognitive-developmental approach.* In T. Lickonda (ed.), *Moral development and behavior.* New York: Holt, Rinehart and Winston, 1976.

小山　隆『現代家族の親子関係』培風館，昭和49年.

Krech, B., and Crutchfield, R.S. *Theory and problems of social psychology.* New York: McGraw-Hill, 1948.

Lepley, R. *Value: A cooperative inquiry.* New York: Columbia University Press, 1949.

Lewis, C.I. *An analysis and valuation.* La Salle, Indiana: Open Court, 1946.

Lewis, C.I. *The ground and nature of the right.* New York: Columbia University Press, 1958.

Lickonda, T. Research on Piaget's theory of moral development. In T. Lickonda (ed.), *Moral development and behavior.* New York: Holt, Rinehart and Winston, 1976.

松原治郎・佐藤カツコ「しつけ」『現代のエスプリ』至文堂，昭和51年.

Matsumoto, Y.S. *Contemporary Japan—The individual and the group.* Philadelphia: The American Philosophical Society, 1960.

見田宗介『価値意識の理論』弘文堂，昭和41年.

Moser, C.A. *Survey methods in social investigation.* London: Heineman, 1958.

Newcomb, T.M. Attitude development as a function of reference groups. In E.E. Accoby, T.M. Newcomb, and E.L. Hartley (eds.), *Readings in social psychology.* New York: Henry Holt and Co., 1947.

Peck, R.F. *The psychology of character development.* New York: John Wiley, 1960.

Perry, R.B. *General theory of value.* Cambridge: Harvard University Press, 1954.

Perry, R.B. *Realms of value.* Cambridge: Harvard University Press, 1954.

Ross, S.D. *Moral decision.* San Francisco: Feeman, Cooper & Co., 1972.

佐野勝男・槙田　仁・山本裕美『文章完成法テスト解説——小・中学生用——』金子書房，昭和36年.

Survey Research Center, Institute for Social Research, University of Michigan *Measuring public attitudes.* Ann Arbor, Michigan: University of Michigan Press, 1951.

Taylor, P.W. *Problems of moral philosophy.* Belmont: Dickenson Publishing Co., 1967.

Wright, F. *The psychology of moral behaviour.* Harmondsworth, Middlesex: Penguin, 1971.

Zigler, E.F., and Child, I.L. *Socialization and personality development.* Massachusetts: Addison Wesley, 1973.

*　　*　　*

資料 1（小 2 用）

学校名	小学校・中学校		
学年		組	
氏名	男 女		

書きかた

この紙をめくると，いろいろな質問がならんでいます。質問の下にはいくつかの答えが書いてあります。それをよんで，あなたが一番そうだと思った答えに○をつけてください。下の例のように○をつけてくれればよいのです。

〔例〕

私の一番すきなたべものは

1. ラーメン
2. カレーライス
3. とんかつ
④ ハンバーグ

あなたがこのなかで一番すきなのがハンバーグなら，4 に④のように○をつけてくれればよいのです。

質問によっては，二つ○をつけてもらうものもありますが，このときは質問文のあとに二つ○をつけてくださいと書いてあります。

これから下は記入しないでください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学校		学年		回答者		性別

小 2

1. 学校がおわってから 私は スポーツを □8
   1. ほとんど 毎日のように している
   2. 時々 している
   3. めったに しない

2. 私の家庭 は □9
   1. たのしい 家庭
   2. ふつう
   3. つまらない

3. 学校へ いくのは □10
   1. とても 楽しい
   2. まあ 楽しい
   3. あまり 楽しくない

4. 友達と けんかした場合 □11
   1. やっつける
   2. 口を きかない
   3. あやまる
   4. にげてしまう

5. 家の手伝いのうち 私は（かっこの中のイ.ロ.ハ.のどれかに○をつけてください）

1. 掃除を
〔イ.よくする ロ.時々する ハ.ぜんぜんしない〕 12

2. 食事の手伝いを
〔イ.よくする ロ.時々する ハ.ぜんぜんしない〕 13

3. お使いにいくことを
〔イ.よくする ロ.時々する ハ.ぜんぜんしない〕 14

4. お風呂のしたくを
〔イ.よくする ロ.時々する ハ.ぜんぜんしない ニ.風呂はない〕 15

5. 下の子の めんどうを
〔イ.よくする ロ.時々みる ハ.ぜんぜんみない ニ.下の子はいない〕 16

6. この級で 私は みんなから 17

1. とても 好かれていると思う
2. まあ 好かれていると思う
3. ふつうに思われている
4. 少し きらわれている

7. 私の お母さん は 18

1. 毎日 働きに 出ている
2. 時々 働きに 出ている
3. 家に いる
4. いない

8. みんなの ために がまんする のは 19

1. いいこと だ
2. しかたがないが がまんする
3. いやだ

9. 私の 欲しい 男の子の友だちは（1つ○をつけてください） 20

1. やさしい人 思いやりの ある人
2. 楽しく 明るい スポーツマン らしい人
3. かっこよくて スマートな人
4. 頭が いい人
5. まじめな 人
6. 強い 人
7. わからない

10. 家族の中で 一番 私に みかた してくれる のは（1つ○をつけてください） 21

1. おとうさん
2. おかあさん
3. おにいさん
4. おねえさん
5. おとうと いもうと
6. おじいさん おばあさん
7. だれも いない

11. 学校で 習うこと は

1. なんでも わかる
2. だいたい わかる
3. ときどき わからない
4. よく わからない

□ 22

12. 家中 みんなで でかけることは

1. よく ある
2. ときどき ある
3. ほとんど ない

□ 23

13. 学校の 「きまり」を 守ること は

1. とても 大切だ と思う
2. あるていど 大切だ と思う
3. あまり 大切だとは 思わない
4. はんぱつを 感じる

□ 24

14. 人に めいわくをかけたとき 私は

1. あやまる
2. わるかった と思う
3. 気になる いやな感じが する
4. じっと している, 何も やる気がしない
5. あやまらない にげる

□ 25

15. 学校へ いくのは 私にとって

1. 勉強のため
2. 友だちと 遊んだり するため
3. なんとなく いくだけ
4. 先生と 話をするため
5. 家にいるより 楽しいから

□ 26

16. 私の してほしいこと を

イ. おとうさんは

1. なんでも きいてくれる
2. ときどき きいてくれる
3. なんにも きいてくれない

□ 27

ロ. おかあさんは

1. なんでも きいてくれる
2. ときどき きいてくれる
3. なんにも きいてくれない

□ 28

17. みんなは 掃除当番になると

1. よく やっている
2. あるていど やっている
3. あまり やっていない
4. まったく やっていない

□ 29

18. 私 にとって 一番だいじなもの は

1. おとうさん おかあさん
2. ともだち
3. 自分
4. お金
5. ない

□ 30

19. 私の ほしい 女の子の友だちは（1つ○をつけてください） □ 31

1. やさしい人
2. 楽しくて 明るい人
3. かっこいい人
4. 頭が いい人
5. まじめな人
6. 強い人
7. わからない

20. 通知表をもらうたびに 私は □ 32

1. 喜んだり 悲しんだりする
2. 楽しくて しかたない
3. いやな 感じがする
4. どうして 通知表なんか あるのかと思う

21. 私は 友達が □ 33

1. たくさん いる
2. すこし いる
3. いない

22. ひとに わるくちを いわれたら わたしは □ 34

1. いいかえす
2. はらがたつ，くやしい
3. なく，しょんぼりする
4. にげてしまう，一人ぼっちに なる
5. 気になる
6. わからない

23. みんなで 決めた「きまり」を やぶる のは □ 35

1. とても いけない
2. あまり よくない
3. たいした ことではない

24. 先生に してもらいたい ことは（1つ○をつけてください） □ 36

1. いっしょに あそんでほしい
2. もっと よく勉強を 教えてほしい
3. もっと 話しかけて ほしい
4. えこひいき しないでほしい
5. もっと きびしく してほしい
6. もっと 甘くしてほしい
7. もっと 自分に 目をかけてほしい
8. もっと 自分の 言うことを きいて ほしい

25. みんなは 学校のものは

1. 大切に している
2. あまり 大切にしていない
3. まったく 大切にしていない

37

26. 私は 掃除当番 になると

1. よく やっている
2. あるていど やっている
3. あまり やっていない
4. まったく やらない

38

資料 2（小 4・5・6 および中 2 用—X）

学校名	小学校・中学校
学年	組
氏名	男 女

書きかた

この紙をめくると，いろいろな質問がならんでいます。質問の下にはいくつかの答えが書いてあります。それをよんで，あなたが一番そうだと思った答えに○をつけてください。下の例のように○をつけてくれればよいのです。

〔例〕

私の一番すきなたべものは

1. ラーメン
2. カレーライス
3. とんかつ
④ ハンバーグ

あなたがこのなかで一番すきなのがハンバーグなら，4 に④のように○をつけてくれればよいのです。

質問によっては，二つ○をつけてもらうものもありますが，このときは質問文のあとに二つ○をつけてくださいと書いてあります。

これから下は記入しないでください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学校		学年		回答者		性別

X

XI

1. 放課後 私は スポーツを
   1. ほとんど 毎日のようにしている
   2. 時々 している
   3. めったに しない

2. 私の家庭を 一口でいうと （イとロの両方につけてください。）

イ、
1. 明るい と思う
2. ふつう と思う
3. 暗い と思う

ロ、
1. たのしい 家庭
2. ふつう
3. つまらない

3. 学校へいくのは 私にとって
   1. とっても 楽しい
   2. まあ 楽しい
   3. 面倒だが 楽しいことも ある
   4. あまり 楽しくない
   5. まったく 楽しくない

4. ねる時間について 私の親は
   1. やかましく いう
   2. 時々 いう
   3 なにも いわない

5. 友だちと けんか した場合
   1. やっつける
   2. しばらく 絶交する
   3. 無視する
   4. 自分からは あやまらない
   5. 困ったな と思う。泣いてしまう
   6. 話し合って 仲直りする
   7. あやまる。反省する

6. 家の 手伝い のうち、私は（かつこの中のイ．ロ．ハのどれかに○をつけてください）
   1. 掃除を〔イ、よくする ロ、時々する ハ、ぜんぜんしない〕
   2. 食事の手伝いを〔イ、よくする ロ、時々する ハ、ぜんぜんしない〕
   3. お使いにいくことを
      〔イ、よくする ロ、時々する ハ、ぜんぜんしない〕
   4. お風呂のしたくを
      〔イ、よくする ロ、時々する ハ、ぜんぜんしない ニ、風呂はない〕
   5. 下の子のめんどうを
      〔イ、よくみる ロ、時々みる ハ、ぜんぜんみない ニ、下の子はいない〕

7. このクラスで 私は みんなから
   1. とても 好かれている と思う
   2. まあ 好かれている と思う
   3. ふつうに 思われている
   4. どちらかというと 自立たないと思う
   5. すこし きらわれていると思う

8. 私の友だち が うちにくると、親は
   1. 喜んで迎えて くれる
   2. いやがる
   3. どちらとも いえない

9. 私が 一番 恥しいと思うのは （1つ○をつけてください。）
   1. みんなの前で 発表したり 知らない人と 話すこと
   2. みんなの前で 失敗すること
   3. スタイル。体のこと
   4. おっちょこちょい。 そそっかしいこと
   5. つい さわいだり、ふざけたりすること
   6. 勉強が できないこと
   7. 別にない

10. 私の お母さん は
　1. 毎日のように働きに 出ている
　2. 時々 働きに 出ている
　3. 家に いる
　4. いない

11. クラブ活動や部活動は 私にとって
　1. 生きがい のようなもの
　2. 友だちを つくるためのもの
　3. それほどのことは ない
　4. やっていない

12. 人の言いなりに なっている人を 見ると
　1. とても 腹が 立っている
　2. 時々　腹が 立っている
　3. 別に 何とも 思わない

13. 体の不自由な人に 対して 私は
　1. いつも やさしくしている
　2. 時々 やさしくしている
　3. ほとんど そういうことは しない

14. 私の 悩みを 親に
　1. よく うちあける
　2. 時々 うちあける
　3. ぜんぜん うちあけない

15. みんなのために がまんする のは
　1. いいことだ
　2. 仕方がないが がまんする
　3. いやだ

22 □
23 □
24 □
25 □
26 □
27 □

16. 受験勉強について 私は（1つだけ ○をつけてください）
　1. ノイローゼに なりそうだ。こわい感じがする
　2. したくない。いやだ
　3. 少しきついが 仕方がない
　4. あまり 悩ま ない
　5. やってもいい。がんばる
　6. 興味ない

17. 私の いちばん望む 異性の 友だち は（一つだけ○をつけてください。）
　1. やさしい人。思いやりのある人
　2. 楽しく明るい スポーツマンらしい人
　3. かっこよくて スマートな人
　4. 頭がいい人
　5. まじめな人
　6. 強い人
　7. かわいい人
　8. 人気のある人
　9. 美人

18. 家族の中で 私に 一番 味方して くれる人は（一つだけ○をつけてください）
　1. 父
　2. 母
　3. 兄
　4. 姉
　5. 弟・妹
　6. おじいさん・おばあさん
　7. いない

28 □
29 □
30 □

19. 学校で 習うことは

1. なんでも よくわかる
2. だいたい わかる
3. 時々 わからない ことがある
4. よく わからない

31

20. 男の いい点 は（二つまで えらんでください。）

1. 活動的なこと
2. 仕事が できること
3. 力が あること
4. 面白い こと
5. かっこいい こと
6. 勉強が できる
7. 優しい
8. おしゃれだ
9. 別にない

32

33

21. 失敗したとき 私は

1. 反省して やりなおす
2. くよくよ 悩んでから やっと やりなおす
3. あきらめて やめてしまう

34

22. 家中 みんなで でかけることは

1. よく ある
2. 時々 ある
3. ほとんど ない

35

23. 学校の きまりを守ることは 私にとって

1. とても大切だ と思う
2. ある程度 大切だと思う
3. あまり 大切だ とは 思わない
4. はんぱつを 感じる

36

XII

1. 私は きょうだいげんか を

1. よく する
2. 時々 する
3. あまり しない
4. きょうだいは いない

37

2. 小遣いを もらったら 私は

1. すぐに 使ってしまう
2. ためておいて ゆっくり使う
3. 全部 貯金 してしまう

38

3. 人に めいわく かけたとき 私は

1. あやまる
2. わるかった と思う
3. 気になる。いやな 感じがする
4. じっとしている。何も やる気がしない
5. あやまらない。逃げる

39

4. 私の お父さん は（イとロの両方に○をつけてください。）

イ、	ロ、
1. えらいと 思う	1. こわい
2. ふつう	2. ふつう
3. えらく ない	3. やさしい
4. いない	4. いない

40

41

5. 学校へ 行くのは 私にとって　□ 42
1. 勉強の ためだ
2. クラブ活動 や部活動 のためだ
3. 友だちと 遊んだり 話したりするためだ
4. なんとなく いくだけ
5. 先生と 話をするため
6. 家にいるより 楽しいからいく
7. 親が うるさいから

6. みんなは 掃除当番に なると　□ 43
1. よく やっている
2. あるていど やっている
3. あまり やっていない
4. まったく やっていない

7. 女は 男に くらべて（二つまで、○をつけてください。）　□ 44　□ 45
1. やさしい。理解がある
2. 勉強する。よく働く
3. 暇そうで いい
4. おしゃれ 好きだ
5. いいとも 悪いとも いえない
6. つまらない。弱い
7. うるさく 陰険だ

8. お母さんは 授業参観に　□ 46
1. いつも くる
2. 時々 くる
3. ぜんぜん こない
4. いないから こない

9. 私にとって 一番 大切なものは（一つだけ○をつけてください。）　□ 47
1. 親、家族
2. 友人、友情
3. 自分、生命
4. 思いやり、優しさ
5. お金
6. なし
7. わからない

10. 通知表を もらうたびに 私は　□ 48
1. 喜んだり 悲しんだりする
2. 楽しくて しかたない
3. いやな 感じがする
4. どうして 通知表なんかあるのか と思う
5. なんとも 思わない

11. 私の友だちが 困難に ぶつかった場合　□ 49
1. 何かと 相談にのる
2. 大したことはできないが、ついていてあげる
3. どうして いいか わからない
4. やはり その人の 問題だと思う
5. 無視する

12. 私が してほしいことを 親は　□ 50
1. なんでも きいてくれる
2. 時々 きいてくれる
3. なんにも きいてくれない

13. 私は いろんなことを 話し合える友だち が
   1. たくさん いる。
   2. すこし いる
   3. いない

51

14. 人に 気持を傷(きず)けられたとき 私は（一つだけ○をつけてください。）
   1. しかえしをする
   2. 腹が立つ。くやしい
   3. 泣く。悩む。しょんぼりする
   4. 逃げてしまう。一人ぼっちになる
   5. 気にしない
   6. わからない

52

15. この学校の生徒(せいと)として 私は
   1. とても よいと思う
   2. まあ よい
   3. ふつうだ
   4. どちらかというと いけない と思う
   5. ほんとうに いけない と思う

53

16. 女のわるい点は（一つだけ○をつけてください。）
   1. 弱いこと
   2. 泣き虫なこと
   3. 馬鹿(ばか)なこと
   4. うるさいこと
   5. 陰険(いんけん)なこと
   6. おしゃれなこと
   7. 別にない

54

17. みんなで 決めた「きまり」を 破(やぶ)るのは
   1. とても いけない
   2. あまり よくない
   3. 大した ことではない

55

18. 友だちづきあいのことに、私の親は
   1. しょっちゅう 口をはさむ
   2. 時々 注意することがある
   3. あまり 口出しをしない

56

19. 先生に してもらいたいことは（二つまで○をつけてください。）
   1. いっしょに 遊んでほしい
   2. もっとよく 勉強を 教えてほしい
   3. もっと 話しかけて ほしい
   4. えこひいき しないで ほしい
   5. もっと きびしくして ほしい
   6. もっと 甘くして ほしい
   7. もっと 自分に 目をかけてほしい
   8. 相談に のってほしい

57

58

20. 反対意見にあうと 私は
   1. 自分の意見(いけん)を 主張(しゅちょう)する
   2. 相手の意見を よく聞いて 結論(けつろん)を 出す
   3. 相手に ひきずられてしまう

59

21. 私の ほしい友だち は（二つまで○をつけてください。）

1. 自分を いい方向に 引っぱってくれる人
2. よく 話を 聞いてくれる人
3. いっしょに 勉強してくれる人
4. かっこいい人
5. 趣味の 同じ人
6. 明るい スポーツマン
7. やさしい人

60 61

22. 親は 私の食事の しかたを

1. 行儀よく 食べなさい と やかましく いう
2. 時々 いう
3. あまり いわない

62

23. みんなは 学校のものを

1. 大切にしている
2. あまり 大切にしていない
3. まったく 大切にしない
4. まったく 無関心である

63

24. あす 試験があるのに、おもしろい テレビ番組があるとき、私は

1. 絶対に 見ない
2. 時々 見る
3. つい 見てしまう
4. 見ながら 勉強する

64

25. 勉強しなさい と親がいうと

1. すなおに 勉強する
2. いやいや する
3. 勉強したくなくなる

65

26. 私は 掃除の時

1. よく やっている
2. あるていど やっている
3. あまり やっていない
4. まったく やらない

66

27. 私にとって もったいない と思うことは
（自由に 思うことを 書いてください。）

28. 私が おとなに なったら
（自由に 書いてください。）

資料 3（小 4・5・6 および中 2 用—Y）

学校名	小学校・中学校		
学年		組	
氏名	男 女		

書きかた

この紙をめくると，いろいろな質問がならんでいます。質問の下にはいくつかの答えが書いてあります。それをよんで，あなたが一番そうだと思った答えに○をつけてください。下の例のように○をつけてくれればよいのです。

〔例〕

私の一番すきなたべものは

1. ラーメン
2. カレーライス
3. とんかつ
④ ハンバーグ

あなたがこのなかで一番すきなのがハンバーグなら，4 に④のように○をつけてくれればよいのです。

質問によっては，二つ○をつけてもらうものもありますが，このときは質問文のあとに二つ○をつけてくださいと書いてあります。

これから下は記入しないでください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学校		学年		回答者		性別

Y

1. 放課後 私は スポーツを □ 8
   1. ほとんど 毎日のようにしている
   2. 時々している
   3. めったに しない

2. 私の家庭を 一口でいうと（イとロの両方につけてください） □ 9 □ 10

イ.	ロ.
1. 明るい と思う	1. たのしい家庭
2. ふつう と思う	2. ふつう
3. 暗い と思う	3. つまらない

3. 学校へいくのは 私にとって □ 11
   1. とっても 楽しい
   2. まあ 楽しい
   3. 面倒だが 楽しいこともある
   4. あまり 楽しくない
   5. まったく 楽しくない

4. 友だちと けんかした場合 □ 12
   1. やっつけてやる
   2. しばらく 絶交する
   3. 無視する。相手にしない
   4. 自分からは あやまらない
   5. 困ったなと思う。泣いてしまう
   6. 話し合って 仲直りする
   7. あやまる 反省する

5. 家の手伝いのうち 私は（かっこの中のイ、ロ、ハのどれかに○をつけてください）

1. 掃除を
〔イ.よくする　ロ.時々する　ハ.ぜんぜんしない〕 □ 13

2. 食事の手伝いを
〔イ.よくする　ロ.時々する　ハ.ぜんぜんしない〕 □ 14

3. お伝いにいくことを
〔イ.よくする　ロ.時々する　ハ.ぜんぜんしない〕 □ 15

4. お風呂のしたくを
〔イ.よくする　ロ.時々する　ハ.ぜんぜんしない　ニ.風呂はない〕 □ 16

5. 下の子のめんどうを
〔イ.よくみる　ロ.時々みる　ハ.ぜんぜんみない　ニ.下の子はいない〕 □ 17

6. このクラスで私はみんなから □ 18

1. とっても好かれていると思う
2. まあ好かれていると思う
3. ふつうに思われている
4. どちらかというと 目立たないと思う
5. すこし きらわれていると思う

7. 私のお母さんは □ 19

1. 毎日のように 働きに出ている
2. 時々 働きに出ている
3. 家にいる
4. いない

8. クラブ活動や 部活動は 私にとって □ 20

1. 生きがいのようなもの
2. 友だちをつくるためのもの
3. それほど大切ではない
4. やっていない

9. 親のしつけは □ 21

1. きびしい
2. ふつう
3. きびしくない

10. 人のいうなりに なっている人を 見ると □ 22

1. とても 腹が 立ってくる
2. 時々 腹が 立ってくる
3. 別に 何とも 思わない

11. お年寄に対して 私は □ 23

1. いつも やさしくしている
2. 時々 やさしくしている
3. ほとんど そういうことはない

12. 私の悩みを 親に □ 24

1. よく うちあける
2. 時々 うちあける
3. ぜんぜん うちあけない

13. みんなのために がまんする のは □ 25

1. いいことだ
2. しかたがないが がまんする
3. いやだ

14. 受験勉強について 私は（一つだけ○をつけてください）

1. ノイローゼになりそうだ。こわい感じがする
2. したくない いやだ
3. 少しきついが しかたがない
4. あまり 悩まない
5. やってもいい。がんばる
6. 興味ない

26

15. 私のいちばん望む異性の友だち は（一つだけ○をつけてください）

1. やさしい人 思いやりのある人
2. 楽しく明るい スポーツマンらしい人
3. かっこよくて スマートな人
4. 頭がいい人
5. まじめな人
6. 強い人
7. かわいい人
8. 人気のある人
9. 美人

27

16. 試験の前に 友達に 問題のとき方を聞かれたら 私は

1. よろこんで 教える
2. しかたがないので 教える
3. 自分で やればよいのに と思う
4. ことわる

28

17. 家族の中で 私に 一番厳しい人 は（一つだけ○をつけてください）

1. 父
2. 母
3. 兄
4. 姉
5. 弟 妹
6. おじいさん おばあさん
7. いない

29

18. 学校で 習うこと は

1. 何んでも よくわかる
2. だいたい わかる
3. 時々 わからないことがある
4. よく わからない

30

19. 女の いい点 は

1. 優しい こと
2. 美しい こと きれいな こと
3. 勉強ができる こと
4. おしゃれなこと
5. 仕事が できること
6. よく世話してくれること
7. 活動的なこと
8. 別にない

31

20. 私の友だちが うちにくると 親は

1. 喜んでむかえてくれる
2. いやがる
3. どちらとも いえない

32

21. 困難に ぶつかった時 私は

1. 自分で やりとげようと 努力する
2. 人の助けを 借りること にする
3. あきらめてしまう

□ 33

22. 家中みんなで でかける ことは

1. よく ある
2. 時々 ある
3. ほとんど ない

□ 34

23. 学校の きまりを守ることは 私にとって

1. とても大切だと思う
2. あるていど大切だと思う
3. あまり大切だとは思わない
4. はんぱつを感じる

□ 35

24. 私の いちばんの 欠点は（一つだけ○をつけてください）

1. おこりっぽい けんかをする
2. わがまま
3. いたずら
4. おっちょこちょい
5. 無責任
6. 勉強ができない
7. 親にすぐ反抗する
8. ない

□ 36

YⅡ

1. 私は きょうだいと

1. よく 遊ぶ
2. 時々 遊ぶ
3. あまり 遊ばない
4. きょうだいは いない

□ 37

2. 私は 貯金を

1. 大いに やっている
2. 時々 やっている
3. ほとんど していない

□ 38

3. 学校へいくのは 私にとって

1. 勉強のためだ
2. クラブ活動や 部活動のためだ
3. 友だちと 遊んだり 話したりするためだ
4. なんとなく いくだけ
5. 先生と 話する ため
6. 家にいるより 楽しいから いく
7. 親が うるさいから

□ 39

4. 人にめいわく かけたとき 私は

1. あやまる
2. わるかったと思う
3. 気になる。いやな感じがする
4. じっとしている。何もやる気がしない
5. あやまらない。逃げる

□ 40

5. 私のお母さんは（イとロの両方に○をつけてください）

イ.
1. こわい
2. ふつう
3. やさしい

ロ.
1. えらいと思う
2. ふつう
3. えらくない

41 □

42 □

6. みんなは 掃除当番になると
1. よく やっている
2. あるていど やっている
3. あまり やっていない
4. まったく やっていない

43 □

7. 男は 女にくらべて（二つまで○をつけてください）
1. 得だ
2. 活動的で 仕事をする
3. 面白い
4. あまり 変わらない
5. 乱暴で いじめっ子が 多い
6. いやらしい
7. いいとも悪いともいえない

44 □

45 □

8. お父さんは 授業参観に
1. いつも くる
2. 時々 くる
3. ぜんぜん こない

46 □

9. 私にとって 一番 大切なものは（一つだけ○をつけてください）
1. 親　家族
2. 友人　友情
3. 自分　生命
4. 思いやり　優しさ
5. お金
6. なし
7. わからない

47 □

10. 通知表を もらうたびに 私は
1. 喜こんだり 悲しんだりする
2. 楽しくて しかたない
3. いやな感じが する
4. どうしても 通知表なんかあるのか と思う
5. なんとも 思わない

48 □

11. 私が 親に してもらいたい のは
1. 一緒に 遊ぶこと
2. 小遣いを くれること
3. 子供扱いを しないこと
4. 頼みごとを きいてくれること

49 □

12. 私は いろんなことを 話し合える 友だち が
1. たくさん いる
2. すこし いる
3. いない

50 □

13. 人に気持を傷つけられた とき 私は（一つだけ○をつけてください） □ 51

1. しかえし をする
2. 腹が立つ。くやしい
3. 泣く。悩む。しょんぼり する
4. 逃げてしまう。一人ぼっち になる
5. 気にしない
6. わからない

14. この学校の生徒として 私は □ 52

1. とても よいと思う
2. まあ よいと思う
3. ふつうだ
4. どちらか というと いけないと思う
5. ほんとうに いけないと思う

15. 男の 悪い 点は （一つだけ○をつけてください） □ 53

1. 乱暴な こと
2. 品が わるい こと
3. いやらしい こと
4. いんけん だ
5. つまらない
6. 別にない

16. みんなで 決めた きまりを 破るのは □ 54

1. とても いけない
2. あまり よくない
3. 大したことではない

17. 友だちから 電話が かかると 親は □ 55

1. その内容を あとで 聞く
2. そばにいて 聞いている
3. ぜんぜん 気にしない

18. 先生に してもらいたい ことは □ 56

1. いっしょに 遊んで ほしい
2. もっとよく 勉強 教えて ほしい
3. もっと 話しかけて ほしい
4. えこひいきしないで ほしい
5. もっと きびしく してほしい
6. もっと 甘くしてほしい
7. もっと 自分に 目をかけてほしい
8. 相談にのってほしい

19. 反対意見にあうと 私は □ 57

1. 自分の意見を 主張する
2. 相手の意見を よく聞いて 結論を出す
3. 相手に ひきずられてしまう

20. 私の ほしい 友だち は （二つまで○をつけてください） □ 58 □ 59

1. 自分を いい方向に 引っぱってくれる人
2. よく 話を聞いてくれる人
3. 一緒に 勉強してくれる人
4. かっこいい人
5. 趣味の 同じ人
6. 明るい スポーツマン
7. やさしい人

21. 帰宅時間について 私の親は

1. よく 注意する
2. 時々 注意する
3. なにも いわない

22. みんなは 学校のもの を

1. 大切に している
2. あまり 大切にしていない
3. まったく 大切にしない
4. まったく 無関心である

23. あす 試験があるのにおもしろいテレビ番組があるとき 私は

1. 絶対に 見ない
2. 時々 見る
3. つい 見てしまう
4. 見ながら勉強する

24. 私は 掃除の時

1. よく やっている
2. あるていど やっている
3. あまり やっていない
4. まったく やらない

25. 受験勉強について 親は

1. いつも 話題にする
2. ときどき 話題にする
3. ほとんど 話題に しない

60

61

62

63

64

26. 日常生活の中で大切にとっておきたいものは

（自由に思うことを書いてください）

27. 私のつきたい職業は

（自由に思っていることを書いてください）